

# 島根県立学校教育職員の評価実施要領

島根県教育委員会

## 1 趣旨

島根県立学校教育職員の評価に関する規則（平成 18 年島根県教育委員会規則第 11 号。以下「規則」という。）の実施に関しては、この要領の定めるところによる。

## 2 評価システムの対象者から除外する職員（規則第 3 条関係）

特別評価の場合を除き、評価システムの対象者から除外する職員は、次のとおりとする。ただし、(1)に掲げる職員のうち常時勤務の者及び(2)については、校長の判断により、資質能力向上支援システムの対象者とする。

- (1) 臨時的任用の職員
- (2) 育児休業代替教育職員
- (3) 教育委員会事務局等勤務者
- (4) 当該年度の 4 月 1 日以降に採用又は異動等を命ぜられた職員のうち 5 (1)②に定める定期評価の対象期間が 4 月に満たない職員
- (5) 次に掲げる事由により、5 (1)①から③に定める定期評価の対象期間において、実際に職務に従事した期間が 4 月に満たない職員
  - ア 休職
  - イ 公務傷病等による休暇
  - ウ 私傷病による休暇
  - エ 産前産後の休暇
  - オ 介護休暇等
  - カ 育児休業
  - キ 配偶者同行休業
  - ク 停職
  - ケ 長期研修
  - コ 長期派遣
  - サ 大学院修学休業
- (6) (1)から(5)に掲げる職員のほか、島根県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が適正な評価を実施することが困難であると認める職員

## 3 評価者及び調整者並びに面接の実施（規則第 4 条及び第 5 条関係）

### (1) 評価システムにおける面接者、評価者及び調整者

面接者、評価者及び評価の調整を行う者（以下「調整者」という。）は、次のとおりとする。

評価対象者	面接者	評価者		調整者
		第一次評価者	第二次評価者	
主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、養護助教諭、講師（常時勤務の者及び地方公務員法第 22 条の 4 第 1 項に規定する短時間勤務の職を占める者に限る。以下同じ。）、実習主任、主任寄宿舎指導員、実習助手及び寄宿舎指導員	職員の所属する学校の校長又は教頭	職員の所属する学校の教頭	職員の所属する学校の校長	教育長

※ 1 教頭が 2 人以上あるときは、あらかじめ校長が指定した教頭とする。

## (2) 面接の実施

面接については、次の①から③により、学校の規模等を考慮して組織の活性化につながる方法を校長が決定し、教職員に説明した上で、学校の実態に応じて柔軟に実施することとする。

- ① 面接は、校長が行うことを基本とし、教頭が同席することも可能とする。
- ② 年度当初面接及び中途面接
  - ・ 教頭のみによる面接を行うことができる。
  - ・ 教頭のみによる面接とする場合は、校長は事前に、教職員に指導・助言が必要な事項を教頭に伝えておくこととし、教頭は、面接終了後直ちに校長に状況を報告することとする。
  - ・ 自己目標等の設定及び達成のため、第二次評価者が定める校内組織等（以下「校内組織等」という。）の支援を目的として、学年部、分掌部等のグループ毎面接を行うことも可能とする。
  - ・ 中途面接については、面接希望者を確認し、希望者について必ず実施することとする。  
なお、学校の規模・実情等により、全員を対象に面接を実施することも可能とする。
- ③ 年度末面接
  - ・ 調整者による確認終了後、年度末面接を実施する。ただし、総合評価S以上又はB以下の職員については、6(1)による確認結果通知後の実施とする。

## 4 資質能力向上支援システム（規則第5条関係）

### (1) 資質能力向上支援システムに係る実施日及び評価対象期間

- ① 職務上の自己目標及び目標達成のための手立て（以下「自己目標等」という。）の設定日、面接日その他の実施日については、次のとおりとする。

自己目標等設定日	年度当初から5月末日までの間で、第二次評価者が職員の自己目標等を確認した日
年度当初面接日	年度当初から5月末日までの間で、第二次評価者が適当と考える日
年度中途面接日	学校の実情に応じて、11月末日までの間で第二次評価者が適当と考える日
自己目標評価日	1月20日までの間で第二次評価者が適当と考える日
年度末面接日	調整者が評価を確認した日から3月上旬までの間で、第二次評価者が適当と考える日

- ② 評価対象期間は、③及び④に掲げる場合を除き、自己目標等設定日から自己目標評価日までの期間とする。
- ③ 当該年度中途において、採用又は異動等を命ぜられた職員の評価対象期間は、その採用又は異動等の後、第二次評価者が当該職員の自己目標等を確認した日から自己目標評価日までの期間とする。
- ④ 当該年度の初日に2(5)のアからサに掲げる事由により勤務していなかった職員の評価対象期間は、当該事由が消滅し勤務に復帰した後、第二次評価者が当該職員の自己目標等を確認した日から自己目標評価日までの期間とする。

### (2) 資質能力向上支援システムの実施

- ① 自己目標評価書の様式  
原則として自己目標評価書の様式は、次のとおりとする。

評価対象者	様式
主幹教諭、教諭、助教諭及び講師	様式 1-1
養護教諭及び養護助教諭	様式 1-2
栄養教諭	様式 1-3
実習主任及び実習助手	様式 1-4
主任寄宿舎指導員及び寄宿舎指導員	様式 1-5

② 自己目標等の設定及び校内組織等の支援

職員は、第二次評価者が定める日までに、学校教育目標等を踏まえ、期待される役割と自己の課題に基づき、評価項目ごとに、当該年度における自己目標等を設定し、その内容を記載した自己目標評価書を第二次評価者に提出する。

自己目標等の設定に当たっては、校内組織等において、各職員の自己目標等について検討を行い支援する。また、評価者もこの校内組織等の支援に適宜参加する。

③ 年度当初面接の実施等

評価者は、5月末までに、職員から提出された自己目標等について、職員と年度当初面接を実施し、職員が適切な自己目標等を設定できるよう指導・助言を行う。また、職員は、評価者の指導・助言に基づき、自己目標等の追加又は変更を行う。なお、最終的に第二次評価者が確認した自己目標等を職員の当該年度における自己目標等とする。

その後、自己目標等を追加又は変更する必要がある職員は、随時、評価者に申し出、第二次評価者の確認を得た上で、自己目標等の追加又は変更を行う。

④ 自己目標評価書の保管

第二次評価者が自己目標等を確認した後の自己目標評価書は、職員が保管することとし、評価者は写しを保管する。

⑤ 自己目標等の達成のための評価者の指導・助言及び校内組織等の支援

評価者は、職員の職務遂行状況の観察等を通して、職員の自己目標等の達成状況の把握に努めるとともに、適宜、適切な指導・助言を行う。

職員の自己目標等の達成のための取組の実施に当たっては、校内組織等において、取組の相談、協力、評価及び改善の検討を行い支援する。また、評価者もこの校内組織等の支援に適宜参加する。

⑥ 年度中途面接の実施

評価者は、学校の実情に応じて11月末までの間に、職員と年度中途面接を実施し、職員の自己目標等の達成状況の把握に努めるとともに、適宜、適切な指導・助言を行う。

実施に当たっては面接希望者を確認し、希望者について必ず実施することとする。なお、学校の規模・実情等により、全員を対象に面接を実施することも可能とする。

⑦ 自己評価の実施

職員は、評価者の指導・助言、他の教職員、児童生徒、保護者等の評価や意見を参考に、評価対象期間における自己目標等の達成状況についての自己評価を行い、その内容を記載した自己目標評価書を、自己目標評価日に第二次評価者に提出する。

⑧ 評価者評価の実施

評価者は、評価対象期間における職員の自己目標等の達成状況についての評価者評価を行い、職員から提出された自己目標評価書に評価結果を記載し、6(1)に定めるところにより、調整者の求めに応じて調整者に提出する。

⑨ 年度末面接の実施

評価者は、年度末面接日に、職員と年度末面接を実施し、7に定めるところにより、当該職員の自己目標評価書及び調整者が確認した後の勤務評価書を開示し、その内容について説明するとともに、指導及び助言を行う。この場合において、評価者は肯定的に評価した内容を積極的に伝える等の方法により、職員の資質能力の向上と職務に対する意欲の向上を図るように配慮する。

## 5 勤務評価

### (1) 定期評価の対象期間（規則第7条関係）

- ① 定期評価の対象期間は、②及び③に掲げる場合を除き、4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。
- ② ①に定める定期評価の対象期間の初日以降に採用又は異動等を命ぜられた職員の定期評価の対象期間は、その採用又は異動等の日から3月31日までとする。
- ③ ①に定める定期評価の対象期間の初日に、2(5)のアからサに掲げる事由により勤務していなかった職員の定期評価の対象期間は、当該事由が消滅し勤務に復帰した日から3月31日までとする。

### (2) 特別評価の実施（規則第8条関係）

- ① 特別評価の対象者、実施日及び対象期間は次のとおりとする。
  - ・対象者 教育長が必要があると認める職員
  - ・実施日 教育長がその都度指定する日
  - ・対象期間 教育長がその都度指定する期間
- ② 特別評価については、職員の自己目標等に係る取組の内容を参考とする。

### (3) 勤務評価の実施（規則第9条関係）

① 勤務評価書の様式

勤務評価書の様式は、次のとおりとする。なお、特別評価については、自己評価欄及び総合評価欄を斜線とする。

評価対象者	様式
主幹教諭	様式 2-1 または 様式 2-2
教諭等	様式 2-3 または 様式 2-4
養護教諭	様式 2-5 または 様式 2-6
栄養教諭	様式 2-7
実習主任	様式 2-8
実習助手	様式 2-9
主任寄宿舎指導員	様式 2-10
寄宿舎指導員	様式 2-11

② 勤務評価の対象とする職務の範囲

勤務評価の対象とする職務の範囲は、勤務時間中の職務全般とする。教育職員について勤務時間を超える勤務等を命ずることが認められている業務についても勤務評価の対象とする。

③ 項目評価と総合評価の実施

勤務評価における項目評価と総合評価の段階評価の方法、学校独自の評価項目及び着眼点等及び評価の実施については次のとおりとする。

	評価者の区分	項目評価	総合評価
ア 段階評価の方法	(ア) 自己評価	・評価者評価に準じて行う。	自己評価は実施しない。
	(イ) 第一次評価者による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別表 1 に定める各評価項目の意欲・姿勢、能力、実績及び自己管理については、別表 2 に定める評価基準、様式 2-1 から 2-11 で校種、職種、及び職制上の段階ごとに定める評価の着眼点及び取組の例に基づき絶対評価を行う。</li> <li>・学校独自の評価項目については、イで定めるとおり、第二次評価者が考えた上で職員に示す評価項目、評価基準、着眼点及び取組の例に基づき絶対評価を行う。</li> </ul>	第一次評価者による評価は実施しない。
	(ウ) 第二次評価者による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別表 1 に定める各評価項目の意欲・姿勢、能力、実績及び自己管理については、別表 2 に定める評価基準、様式 2-1 から 2-11 で校種、職種、及び職制上の段階ごとに定める評価の着眼点及び取組の例に基づき絶対評価を行う。</li> <li>・学校独自の評価項目については、イで定めるとおり、第二次評価者が考えた上で職員に示す評価項目、評価基準、着眼点及び取組の例に基づき絶対評価を行う。</li> </ul>	別表 3 に定める評価基準に基づき絶対評価を行う。
イ 学校独自の評価項目及び着眼点等	(ア) 第二次評価者による作成及び職員への伝達	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色ある学校づくりの視点や学校教育目標との関係等から、</li> <li>・評価項目に学校独自の内容を設定する場合は、評価基準、評価の着眼点及び取組の例を作成し、年度当初に職員に示すものとする。</li> <li>・様式 2-1 から様式 2-11 に定める評価の着眼点及び取組の例に第二次評価者が考える着眼点及び取組の例を加える場合は、年度当初に職員に示すものとする。</li> </ul>	

ウ 評価の実施	(ア) 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1月20日までに、自己目標等の達成状況を踏まえて自己評価を実施し、その内容を記載した勤務評価書を第一次評価者に提出する。</li> <li>・ 自己評価実施日に2(5)のAからサに掲げる事由により勤務していない職員については自己評価は実施しない。</li> </ul>	自己評価は実施しない。
	(イ) 第一次評価者による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価の翌日に評価を行い、その内容を記載した勤務評価書を第二次評価者に提出する。</li> <li>・ 資質能力向上支援システムにおいて設定した自己目標等の達成状況についての職員の自己評価及び評価者評価の内容並びに勤務評価における職員の自己評価の内容を参考とする。</li> <li>・ 第二次評価者への勤務評価の提出に際し、自ら把握した職員の職務遂行状況、自己目標等の達成状況及び職員に対する指導・助言の状況を伝えるものとする。</li> </ul>	第一次評価者による評価は実施しない。
	(ウ) 第二次評価者による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価の翌日に評価を行い、その内容を勤務評価書に記載する。</li> <li>・ 資質能力向上支援システムにおいて設定した自己目標等の達成状況についての職員の自己評価及び評価者評価の内容並びに勤務評価における職員の自己評価の内容及び第一次評価者の評価結果及び説明等を参考とする。</li> <li>・ 勤務評価書に所見及び今後の育成方針を記載するものとする。</li> </ul>	・ Aに定める段階評価の方法により絶対評価を行い、S以上又はB以下の評価をする場合は、その具体的な理由（影響・効果等）を記載するものとする。

## 6 評価結果の報告及び再評価

### (1) 第二次評価者の勤務評価等の報告（規則第5条、第9条関係）

第二次評価者は、勤務評価実施後、次により調整者に報告する。

教育委員会は、総合評価の結果については、10の給与への反映に備え、必要に応じて、調整・優先度の判断を2月末日までに実施し、その結果を第二次評価者へ通知することとする。

#### ① 定期評価にかかる評価システム実施報告書等の作成部数、提出部数及び報告期日

	様式	第二次評価者の作成部数	第二次評価者から調整者への提出部数
自己目標評価書 (自己目標評価シート)	様式 1-1～1-5	2	調整者が必要を認めたときに提出
勤務評価書 (評価・育成シート)	様式 2-1～2-11	2	1
評価システム実施報告書	様式 3	2	1
勤務評価一覧表	様式 4	2	1
報告期日			2月1日まで

#### ② 特別評価にかかる評価システム実施報告書等の作成部数、提出部数及び報告期日

	様式	第二次評価者の作成部数	第二次評価者から調整者への提出部数
勤務評価書	様式 2-1～2-11のうち、該当職員に応じた様式	2	1
勤務評価一覧表	様式 4	2	1
報告期日			第二次評価者が評価を行った日から5日以内

### (2) 評価の再考等（規則第10条関係）

#### ① 調整者の責務

勤務評価書の提出を受けた調整者は、評価が次のいずれかの場合に該当すると認められるときは、評価者に評価について再考を求める。

ア 対象者全体の評価が、他の学校に比較して、著しく均衡を欠く場合

イ 総合評価についてS以上又はB以下の評価がある場合、その具体的な影響・効果について説明が十分でない場合

ウ その他明らかに誤った評価や不適切と思われる評価がなされている場合

#### ② 評価の再評価

評価者は、調整者より評価の再考を指示されたときは、再評価を行うものとする。

### (3) 定期評価の再評価（規則第11条関係）

① 評価者は、定期評価の実施後、3月31日までの間に、職員の職務遂行状況を勤務評価に反映させる必要があると認めたときは、様式5により第二次評価者が調整者に評価の修正を申し出るものとする。

- ② ①において、7に定める評価結果の開示により、既に勤務評価書の写しを職員に交付していた場合は、調整者が①の申出を承認した後、第二次評価者が再評価を行った職員に再評価の内容について説明し、改めて勤務評価書の写しを交付するものとする。

## 7 評価結果の開示（規則第13条関係）

第二次評価者は、特別評価の場合を除き、年度末面接時に、自己目標評価書及び調整者が確認した後の勤務評価書の写しを職員に開示し交付する。ただし、総合評価S以上又はB以下の職員への開示は、6(1)の教育委員会の総合評価の調整等の結果通知後とする。なお、評価結果を開示することにより当該職員の健康に支障が生ずるおそれがあると認められる場合は、教育長に協議し、開示の可否について指示を受けるものとする。

## 8 苦情の申出（規則第14条関係）

職員は、開示された評価結果について納得できない場合は、第二次評価者に口頭で申し出るものとする。評価の理由について第二次評価者から説明を受けた後においてもなお評価の結果について納得できないときは、教育長が指定する日までに教育長に対し、所属名、職名、氏名及び苦情の内容を記載した文書を提出し、苦情の申出をするものとする。

## 9 評価書等の取扱い及び保管期間等（規則第13条及び第15条関係）

- (1) 評価書等は次の事項に留意し取扱う。

ア 7に定めるところにより評価結果を開示する場合を除き、自己目標評価書、勤務評価書及び勤務評価一覧表は公開しないものとする。

イ 自己目標評価書、勤務評価書及び勤務評価一覧表等を保管する者は、その記載内容が漏洩することがないように取扱いに注意するとともに、評価において知り得た情報については、みだりに他人に知らせ、又は不当な目的のために使用してはならない。

- (2) 評価書等は次の事項に留意し保管する。

ア 実施年度の翌年度から3年間保管するものとする。

イ 保管に当たっては、保管担当者を定め、施錠のできる鉄庫、戸棚等に一括して収納しておくものとする。

## 10 給与（勤勉手当及び昇給。以下「給与」という）への反映

- (1) 試行

勤務評価における総合評価の結果を給与に反映することとする。令和3年度は試行とするため、令和3年度の総合評価の結果は給与に反映しない。

- (2) 給与反映の実施要領

給与反映の実施については、この実施要領とは別に定める。

## 11 その他

この要領に定めるもののほか、島根県立学校教育職員の評価に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

### 附 則

この要領は、平成18年4月1日から施行する。

### 附 則

この要領は、平成20年4月1日から施行する。

### 附 則

この要領は、平成21年4月1日から施行する。



**附 則**

この要領は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、令和 2 年 7 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、令和 4 年 8 月 1 日から施行する。

**附 則**

この要領は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1

ア 主幹教諭

評価項目	職務の具体例
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科指導</li> <li>○「道徳の時間」の指導（特別支援学校小・中学部）</li> <li>○「総合的な学習の時間」の指導</li> <li>○「外国語活動」の指導（特別支援学校小学部）</li> <li>○自立活動（特別支援学校）</li> <li>○学習指導に関する研究・研修の推進</li> </ul>
生徒指導・進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導（校務分掌を除く）</li> <li>○進路指導（校務分掌を除く）</li> <li>○生徒指導・進路指導に関する研究・研修の推進</li> </ul>
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校務分掌</li> <li>○教育計画の企画・調整</li> <li>○学部・学年経営</li> <li>○教職員の育成指導</li> <li>○家庭・地域との連携</li> <li>○学校運営に関する研究・研修の推進</li> </ul>
自己管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職務全般（教育公務員としての職責や義務の自覚、自己認識及び改善意欲）</li> </ul>

イ 教諭・助教諭・講師

評価項目	職務の具体例
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科指導</li> <li>○「道徳の時間」の指導（特別支援学校小・中学部）</li> <li>○「総合的な学習の時間」の指導</li> <li>○「外国語活動」の指導（特別支援学校小学部）</li> <li>○自立活動（特別支援学校）</li> <li>○学習指導に関する研究・研修</li> </ul>
生徒指導・進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導（校務分掌を除く）</li> <li>○進路指導（校務分掌を除く）</li> <li>○生徒指導・進路指導に関する研究・研修</li> </ul>
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校務分掌</li> <li>○学部・学年・学級経営</li> <li>○特別活動</li> <li>○部活動</li> <li>○学校運営に関する研究・研修</li> </ul>
自己管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職務全般（教育公務員としての職責や義務の自覚、自己認識及び改善意欲）</li> </ul>

ウ 養護教諭・養護助教諭

評価項目	職務の具体例
保健管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康観察・健康診断（保健調査）</li> <li>○健康相談</li> <li>○疾病予防</li> <li>○救急処置（応急手当等）</li> <li>○健康生活の実践状況の把握及び規正</li> <li>○学校生活の管理</li> <li>○学校環境の衛生的管理</li> <li>○保健管理に関する研究・研修</li> </ul>

保健教育	○個別・日常指導 ○保健の学習 ○保健教育に関する研究・研修
学校運営	○校務分掌 ○保健に関わる組織活動（学校保健委員会） ○保健室経営 ○特別活動 ○学校運営に関する研究・研修
自己管理	○職務全般（教育公務員としての職責や義務の自覚、自己認識及び改善意欲）

#### エ 栄養教諭

評価項目	職務の具体例
食に関する指導	○食に関する個別的な相談指導 ○教科・特別活動等における食に関する指導 ○食に関する指導の連携・調整 ○食に関する指導に係る研究・研修
学校給食の管理	○学校給食に関する基本計画への参画 ○栄養管理 ○衛生管理 ○検食・保存食等 ○調理指導 ○学校給食の管理に関する研究・研修
学校運営	○校務分掌 ○特別活動 ○学校運営に関する研究・研修
自己管理	○職務全般（教育公務員としての職責や義務の自覚、自己認識及び改善意欲）

#### オ 実習主任・実習助手

評価項目	職務の具体例
授業・事務	○授業・実験・実習用器具等の準備・維持管理 ○授業・実験・実習の指導補助 ○授業・実験・実習に関する研究・研修
学校運営	○校務分掌 ○特別活動 ○部活動 ○学校運営に関する研究・研修
自己管理	○職務全般（教育公務員としての職責や義務の自覚、自己認識及び改善意欲）

#### カ 主任寄宿舎指導員・寄宿舎指導員

評価項目	職務の具体例
寄宿舎生の指導	○寄宿舎生の生活の指導 ○健康・安全に関する指導 ○寄宿舎生の生活の指導に関する研究・研修
学校運営	○校務・舎務分掌、舎務の処理 ○舎行事・舎生会活動 ○学校運営に関する研究・研修

自己管理	○職務全般（教育公務員としての職責や義務の自覚、自己認識及び改善意欲）
------	-------------------------------------

## 別表 2

項目評価の基準（各評価項目の観点ごとの評価で、職務の遂行状況の評価するもの）

S+	すべての着眼点において、周囲からの助言・指導が必要ないレベルで、常に求められる水準以上の取組であった。
S	すべての着眼点において、周囲からの助言・指導がほとんど必要ないレベルで、常に求められる水準の取組であった。
A	ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・指導を有効に生かし、求められる水準の取組であった。
B	本人の努力は認めるが、ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・支援がなければ職務を遂行しにくい状況が多く、求められる水準の取組が見られないことが多かった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。
C	すべての着眼点において、求められる水準の取組がほとんど見られず、周囲からの助言・支援がなければ職務遂行できないことが頻繁であった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。

## 別表 3

総合評価の基準（すべての項目評価を通した上で、学校の活性化及び地域の教育の充実にに対する貢献を評価するもの）

ア S以上とする場合は、次の①又は②の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてS以上があり、B以下がないこと。独自の内容及び自己管理についてはB以下がないこと。	
イ B以下とする場合は、次の④又は⑤の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてB以下があり、S以上がないこと。	
①	【S+】すべての評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者（教職員、児童生徒、保護者等。以下「関係者」という。）はもとより県全域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。
②	【S】多くの評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者はもとより地域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。
③	【A】求められる成果や取組があり、チームの一員としての役割を果たしていた。（他のいずれの区分にも当てはまらない場合）
④	【B】求められる成果や取組が見られないことがあり、校内及び地域の関係者に支障を及ぼすことが頻繁にあった。
⑤	【C】求められる成果や取組が見られないことが多く、校内及び地域の関係者に著しい支障を頻繁に及ぼした。

表面

様式 1-1【主幹教諭・教諭・助教諭・講師】自己目標評価シート

自己目標等設定日 令和 年 月 日

職名		ふりがな 氏名	
----	--	------------	--

第二次評価者

第一次評価者

1 目標と手立て

評価項目	自己目標	目標達成のための手立て
学習指導		
生徒指導 進路指導		
学校運営		
※独自の 内容		

自己目標の設定の際は、裏面の【記入上の留意事項】を確認すること。

2 年度末評価(コメントは出来るだけ簡潔に記載した上で、面接で会話によって直接伝えるよう心がけること)

自 評 己 価	自己目標等の達成状況を説明する際、評価者に伝えたい点に☑する <input type="checkbox"/> 児童生徒の変容 <input type="checkbox"/> 学校・学級運営改善等 <input type="checkbox"/> 目標達成のための取組 <input type="checkbox"/> 今後の改善	〔☑を入れた点について具体的に箇条書き〕
評 価 者 価	①評価する点について☑し、右欄には面接で伝える要旨、ポイントを必要に応じて記載 <input type="checkbox"/> 児童生徒の変容 <input type="checkbox"/> 学校・学級運営改善等 <input type="checkbox"/> 目標達成のための取組、努力 <input type="checkbox"/> 職務上の成長	①必要に応じて記載
	②今後の改善と期待について、右欄に記載	②

## 裏面

### 【記入上の留意事項】

- ・学校教育目標等を踏まえ、期待される役割と自己の課題に基づいて目標を設定する。
- ・努力すれば実現できる目標を設定する。具体的な目標を設定する。
- ・目標達成のための具体的な手立てを明らかにする…「いつまでに」「どのように」「どの程度」実施していくかを明確にしておくことにより、目標達成の過程が自己管理しやすくなるとともに、管理職も時期を逸することなく、指導・助言を行うことができる。
- ・※「独自の内容」については、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合にのみ記入する。
- ・「評価項目」ごとの職務具体例は次のとおり

### 別表 1

#### ア 主幹教諭

評価項目	職務の具体例
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科指導</li> <li>○「道徳の時間」の指導（特別支援学校小・中学部）</li> <li>○「総合的な学習の時間」の指導</li> <li>○「外国語活動」の指導（特別支援学校小学部）</li> <li>○自立活動（特別支援学校）</li> <li>○学習指導に関する研究・研修の推進</li> </ul>
生徒指導・進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導（校務分掌を除く）</li> <li>○進路指導（校務分掌を除く）</li> <li>○生徒指導・進路指導に関する研究・研修の推進</li> </ul>
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校務分掌</li> <li>○教育計画の企画・調整</li> <li>○学部・学年経営</li> <li>○教職員の育成指導</li> <li>○家庭・地域との連携</li> <li>○学校運営に関する研究・研修の推進</li> </ul>
自己管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職務全般（教育公務員としての職責や義務の自覚、自己認識及び改善意欲）</li> </ul>

#### イ 教諭・助教諭・講師

評価項目	職務の具体例
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科指導</li> <li>○「道徳の時間」の指導（特別支援学校小・中学部）</li> <li>○「総合的な学習の時間」の指導</li> <li>○「外国語活動」の指導（特別支援学校小学部）</li> <li>○自立活動（特別支援学校）</li> <li>○学習指導に関する研究・研修</li> </ul>
生徒指導・進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導（校務分掌を除く）</li> <li>○進路指導（校務分掌を除く）</li> <li>○生徒指導・進路指導に関する研究・研修</li> </ul>
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校務分掌</li> <li>○学部・学年・学級経営</li> <li>○特別活動</li> <li>○部活動</li> <li>○学校運営に関する研究・研修</li> </ul>
自己管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職務全般（教育公務員としての職責や義務の自覚、自己認識及び改善意欲）</li> </ul>

表面

様式 1-2【養護教諭・養護助教諭】自己目標評価シート

自己目標等設定日 令和 年 月 日

職名		ふりがな 氏名	
----	--	------------	--

第二次評価者

第一次評価者

1 目標と手立て

評価項目	自己目標	目標達成のための手立て
保健管理		
保健教育		
学校運営		
※独自の 内容		

自己目標の設定の際は、裏面の【記入上の留意事項】を確認すること。

2 年度末評価(コメントは出来るだけ簡潔に記載した上で、面接で会話によって直接伝えるよう心がけること)

自己 評価	<p>自己目標等の達成状況を説明する際、評価者に伝えたい点に☑する</p> <p><input type="checkbox"/> 児童生徒の変容</p> <p><input type="checkbox"/> 学校・学級運営改善等</p> <p><input type="checkbox"/> 目標達成のための取組</p> <p><input type="checkbox"/> 今後の改善</p>	<p>[☑を入れた点について具体的に箇条書き]</p>
評価者 評価	<p>①評価する点について☑し、右欄には面接で伝える要旨、ポイントを必要に応じて記載</p> <p><input type="checkbox"/> 児童生徒の変容</p> <p><input type="checkbox"/> 学校・学級運営改善等</p> <p><input type="checkbox"/> 目標達成のための取組、努力</p> <p><input type="checkbox"/> 職務上の成長</p>	<p>①必要に応じて記載</p>
	<p>②今後の改善と期待について、右欄に記載</p>	<p>②</p>

## 裏面

### 【記入上の留意事項】

- ・学校教育目標等を踏まえ、期待される役割と自己の課題に基づいて目標を設定する。
- ・努力すれば実現できる目標を設定する。具体的な目標を設定する。
- ・目標達成のための具体的な手立てを明らかにする…「いつまでに」「どのように」「どの程度」実施していかを明確にしておくことにより、目標達成の過程が自己管理しやすくなるとともに、管理職も時期を逸することなく、指導・助言を行うことができる。
- ・※「独自の内容」については、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合にのみ記入する。
- ・「評価項目」ごとの職務具体例は次のとおり

### 別表 1

#### ウ 養護教諭・養護助教諭

評価項目	職務の具体例
保健管理	○健康観察・健康診断（保健調査） ○健康相談 ○疾病予防 ○救急処置（応急手当等） ○健康生活の実践状況の把握及び規正 ○学校生活の管理 ○学校環境の衛生的管理 ○保健管理に関する研究・研修
保健教育	○個別・日常指導 ○保健学習 ○保健教育に関する研究・研修
学校運営	○校務分掌 ○保健に関わる組織活動（学校保健委員会） ○保健室経営 ○特別活動 ○学校運営に関する研究・研修
自己管理	○職務全般（教育公務員としての職責や義務の自覚、自己認識及び改善意欲）



表面

様式 1-3 【栄養教諭】

自己目標評価シート

自己目標等設定日 令和 年 月 日

職名		ふりがな 氏名	
----	--	------------	--

第二次評価者

第一次評価者

1 目標と手立て

評価項目	自己目標	目標達成のための手立て
食に関する 指導		
学校給食 の管理		
学校運営		
※独自の 内容		

自己目標の設定の際は、裏面の【記入上の留意事項】を確認すること。

2 年度末評価(コメントは出来るだけ簡潔に記載した上で、面接で会話によって直接伝えるよう心がけること)

自 己 評 価	自己目標等の達成状況を説明する際、評価者に伝えたい点に☑する □児童生徒の変容 □学校・学級運営改善等 □目標達成のための取組 □今後の改善	[☑を入れた点について具体的に箇条書き]
評 価 者 評 価	①評価する点について☑し、右欄には面接で伝える要旨、ポイントを必要に応じて記載 □児童生徒の変容 □学校・学級運営改善等 □目標達成のための取組、努力 □職務上の成長 ②今後の改善と期待について、右欄に記載	①必要に応じて記載  ②

## 裏面

### 【記入上の留意事項】

- ・学校教育目標等を踏まえ、期待される役割と自己の課題に基づいて目標を設定する。
- ・努力すれば実現できる目標を設定する。具体的な目標を設定する。
- ・目標達成のための具体的な手立てを明らかにする…「いつまでに」「どのように」「どの程度」実施していかを明確にしておくことにより、目標達成の過程が自己管理しやすくなるとともに、管理職も時期を逸することなく、指導・助言を行うことができる。
- ・※「独自の内容」については、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合にのみ記入する。
- ・「評価項目」ごとの職務具体例は次のとおり

### 別表 1

#### エ 栄養教諭

評価項目	職務の具体例
食に関する指導	○食に関する個別的な相談指導 ○教科・特別活動等における食に関する指導 ○食に関する指導の連携・調整 ○食に関する指導に係る研究・研修
学校給食の管理	○学校給食に関する基本計画への参画 ○栄養管理 ○衛生管理 ○検食・保存食等 ○調理指導 ○学校給食の管理に関する研究・研修
学校運営	○校務分掌 ○特別活動 ○学校運営に関する研究・研修
自己管理	○職務全般（教育公務員としての職責や義務の自覚、自己認識及び改善意欲）

表面

様式 1-4【実習主任・実習助手】 自己目標評価シート

自己目標等設定日 令和 年 月 日

職名		ふりがな 氏名	
----	--	------------	--

第二次評価者

第一次評価者

1 目標と手立て

評価項目	自己目標	目標達成のための手立て
授業・事務		
学校運営		
※独自の 内容		

自己目標の設定の際は、裏面の【記入上の留意事項】を確認すること。

2 年度末評価(コメント欄は出来るだけ簡潔に記載した上で、面接で会話によって直接伝えるよう心がけること)

自己 評価	自己目標等の達成状況を説明する際、 評価者に伝えたい点に☑する □児童生徒の変容 □学校・学級運営改善等 □目標達成のための取組 □今後の改善	[☑を入れた点について具体的に箇条書き]
評価者 評価	①評価する点について☑し、右欄には 面接で伝える要旨、ポイントを必要に応じて記載 □児童生徒の変容 □学校・学級運営改善等 □目標達成のための取組、努力 □職務上の成長	①必要に応じて記載
	②今後の改善と期待について、右欄に 記載	②

## 裏面

### 【記入上の留意事項】

- ・学校教育目標等を踏まえ、期待される役割と自己の課題に基づいて目標を設定する。
- ・努力すれば実現できる目標を設定する。具体的な目標を設定する。
- ・目標達成のための具体的な手立てを明らかにする…「いつまでに」「どのように」「どの程度」実施していくかを明確にしておくことにより、目標達成の過程が自己管理しやすくなるとともに、管理職も時期を逸することなく、指導・助言を行うことができる。
- ・※「独自の内容」については、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合にのみ記入する。
- ・「評価項目」ごとの職務具体例は次のとおり

### 別表 1

#### オ 実習主任・実習助手

評価項目	職務の具体例
授業・事務	○授業・実験・実習用器具等の準備・維持管理 ○授業・実験・実習の指導補助 ○授業・実験・実習に関する研究・研修
学校運営	○校務分掌 ○特別活動 ○部活動 ○学校運営に関する研究・研修
自己管理	○職務全般（教育公務員としての職責や義務の自覚、自己認識及び改善意欲）

表面

様式 1-5 【主任寄宿舎指導員・寄宿舎指導員】自己目標評価シート

自己目標等設定日 令和 年 月 日

職名		ふりがな 氏名	
----	--	------------	--

第二次評価者

第一次評価者

1 目標と手立て

評価項目	自己目標	目標達成のための手立て
寄宿舎生の指導		
学校運営		
※独自の 内容		

自己目標の設定の際は、裏面の【記入上の留意事項】を確認すること。

2 年度末評価(コメント欄は出来るだけ簡潔に記載した上で、面接で会話によって直接伝えるよう心がけること)

自己 評価	自己目標等の達成状況を説明する際、 評価者に伝えたい点に☑する □児童生徒の変容 □学校・学級運営改善等 □目標達成のための取組 □今後の改善	[☑を入れた点について具体的に箇条書き]
評価者 評価	①評価する点について☑し、右欄には 面接で伝える要旨、ポイントを必要に応じて記載 □児童生徒の変容 □学校・学級運営改善等 □目標達成のための取組、努力 □職務上の成長	①必要に応じて記載
	②今後の改善と期待について、右欄に 記載	②

## 裏面

### 【記入上の留意事項】

- ・学校教育目標等を踏まえ、期待される役割と自己の課題に基づいて目標を設定する。
- ・努力すれば実現できる目標を設定する。具体的な目標を設定する。
- ・目標達成のための具体的な手立てを明らかにする…「いつまでに」「どのように」「どの程度」実施していくかを明確にしておくことにより、目標達成の過程が自己管理しやすくなるとともに、管理職も時期を逸することなく、指導・助言を行うことができる。
- ・※「独自の内容」については、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合にのみ記入する。
- ・「評価項目」ごとの職務具体例は次のとおり

### 別表 1

#### カ 主任寄宿舎指導員・寄宿舎指導員

評価項目	職務の具体例
寄宿舎生の指導	○寄宿舎生の生活の指導 ○健康・安全に関する指導 ○寄宿舎生の生活の指導に関する研究・研修
学校運営	○校務・舎務分掌、舎務の処理 ○舎行事・舎生会活動 ○学校運営に関する研究・研修
自己管理	○職務全般（教育公務員としての職責や義務の自覚、自己認識及び改善意欲）

様式2-1【高等学校主幹教諭】

評価・育成シート

第二次評価者

所属				職名			ふりがな氏名		
通し番号		担当学年(担当科目)		校務分掌					

第一次評価者

評価期間 年 月 日～ 年 月 日

評価項目	評価の観点	着眼点及び取組の例	自己評価	第一次評価者	第二次評価者
			S+ S A B C	S+ S A B C	S+ S A B C
学習指導	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】生徒理解、課題解決、指導方法の工夫・改善、教職員間の連携、保護者との連携、研修意欲</b></p> <p>①生徒一人一人の学習状況及び日常生活態度の変化に常に目を向け、積極的に生徒理解に取組んでいる。</p> <p>②生徒一人一人の学力の把握に努め、個々に応じた学習指導や、学習意欲の向上に努めている。</p> <p>③学習への関心・意欲を高める教材の開発や、指導方法の工夫・改善に努めている。</p> <p>④他の教職員の取組を継続的に支援し、生徒の学習状況の改善に努めるとともに、主任等と連携し、教職員間の連携・協力を図るよう努めている。</p> <p>⑤学級担任や学年主任等へ助言・支援し、保護者との適切な連携を図りながら、生徒の学習状況の改善に努めている。</p> <p>⑥自らの指導方法改善のための研修に努めるとともに、他の教職員の指導力向上を図る研修の推進者として努めている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】生徒理解、指導計画の作成・実施、知識技能の保有・活用、課題把握・課題解決、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①主任等と連携し、生徒の学力、学習意欲、学習の定着状況を把握している。</p> <p>②生徒の実態に即した指導計画を作成し、取組を進めている。</p> <p>③授業のねらいを明確にした指導、教材の関連を捉えた指導を行う等、専門的知識・技能を有し、授業に活用している。</p> <p>④学級担任や学年主任等と連携し、生徒一人一人の課題を共有しながら、課題解決に向けての取組を行っている。</p> <p>⑤課題解決に当たって、主任等と連携しながら問題点を整理し、適切な指導や支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、各教科の目標の達成、適切な支援による学習内容の定着、生徒の変容、指導方法・教材の工夫</b></p> <p>①学校経営方針に基づいて、指導目標を達成できた。</p> <p>②指導計画に基づき適切に指導・評価を行い、各教科の目標を達成できた。</p> <p>③評価の結果をもとに適切な支援を行い、教科等の内容を定着させることができた。</p> <p>④生徒の学習意欲を高め、学習への取組が向上した。</p> <p>⑤自ら率先して指導方法や教材を工夫し、他の教職員へも指導・助言することを通して指導力を向上させることができた。</p>			
生徒指導 進路指導	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】公平な姿勢・態度、生徒理解、課題解決、健康・安全への配慮、教職員間の連携、保護者との連携、研修意欲</b></p> <p>①生徒に対し公平に接するよう努めている。</p> <p>②主任等と連携し、生徒に進んで声をかける等、生徒理解や生徒との関係づくりに努めている。</p> <p>③生徒のより良い自己実現をめざし、組織的な対応をリードしながら、生徒指導・進路指導に努めている。</p> <p>④主任等と連携し、生徒一人一人の心身の健康や安全に配慮し、指導に当たろうとしている。</p> <p>⑤他の教職員の取組を継続的に支援し、生徒指導上や進路指導上の課題解決に当たるとともに、主任等と連携しながら教職員間の連携を図るよう努めている。</p> <p>⑥学級担任や学年主任等へ助言・支援し、保護者との連携に努め、協力体制を構築するよう努めている。</p> <p>⑦自ら生徒理解のための研修に努めるとともに、他の教職員が生徒理解を深めることのできる研修の推進者として努めている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】生徒理解、指導計画の作成・実施、状況把握・判断力、対応力、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①主任等と連携しながらカウンセリングマインドを持って、一人一人の生徒の性格、希望、悩み等の理解を深める関わりを作っている。</p> <p>②主任等と連携を図りながら、生徒の発達段階や課題に応じた指導計画を作成し、取組を進めている。</p> <p>③課題を有する生徒の状況を適切に把握し、校内組織を活用しながら、適切な対応を行っている。</p> <p>④組織的な対応をリードしながら、反社会的な行為に対しては、毅然とした態度で対応している。</p> <p>⑤課題解決に当たって、主任等と連携しながら問題点を整理し、適切な指導や支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、健全な生活態度の育成、個別の支援による生活態度の改善、望ましい人間関係・集団の醸成、課題を有する生徒への対応</b></p> <p>①学校経営方針に基づいて、指導目標を達成できた。</p> <p>②主任等と連携し、学校経営方針に基づく指導を適切に行い、健全な生活態度を育成できた。</p> <p>③主任等と連携し、生徒一人一人の課題に基づいた適切な支援を継続して行うことによって、生活態度の改善が図られた。</p> <p>④生徒指導・進路指導を通して、生徒と教職員との良好な関係を築くことができた。</p> <p>⑤望ましい集団作りをめざした取り組み、指導を率先して行い、生徒相互の良好な関係を築くことができた。</p> <p>⑥課題の早期発見や協力体制づくりを行うなど、生徒への対応について組織を活用しながら適切に行った。</p>			

学校運営	意欲 姿勢	<p><b>【着眼点】経営参加、課題解決、活動参加、校務に対する責任感、教職員間の連携、保護者・地域との連携、研修意欲</b></p> <p>①学校経営方針を分かりやすく教職員に伝え、自らの校務について積極的に提案するとともに、教職員の取組を促すための支援や動機付けを行おうとしている。</p> <p>②教職員のリーダーとして他の教職員の意見をまとめ、積極的に課題を解決しようとしている。</p> <p>③学校行事や生徒会活動等の意義を理解し、分掌間の連携を図りながら、積極的に取り組もうとしている。</p> <p>④校務についての責任を自覚し、担当した校務や他の教職員の取組への支援を主体的に取り組もうとしている。</p> <p>⑤他の教職員の取組に対して分掌間、学年間の主任等の意見を取りまとめながら、積極的に関わろうとしている。</p> <p>⑥保護者、地域に対する校内の窓口となり、連携、協力を努めている。</p> <p>⑦自ら担当した校務等に係る研修に努めるとともに、自ら研修の推進者として努めている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】計画の作成・実施、調整力、企画力・創意工夫、校務処理、発想や判断の柔軟性、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①校長が示す学校経営方針を理解し、その実現のための具体策を考えるとともに、教頭を補佐しながら実施している。</p> <p>②校長及び教頭が的確かつ迅速に状況を捉え、校長が適切に判断を下せるよう教職員の意見をとりまとめている。</p> <p>③校長が求める学校経営の実現を目指し、先見性を持ち、教頭を補佐しながら、創意工夫を生かして企画や計画を行っている。</p> <p>④担当した校務を的確かつ効率的に処理している。</p> <p>⑤教育に関することのみならず、社会の幅広い情報を捉え、校長、教頭及び他の教職員に提供するとともに、学校運営に生かしている。</p> <p>⑥他の教職員の取組に関する課題を進んで把握し、自らの指導経験をふまえ、適切な指導、助言を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、自主性・実践力の育成、学校運営の改善、保護者・地域の協力、危機管理</b></p> <p>①他の教職員の取組に対する指導・助言を行い、校長が適切に判断を下せるよう補佐する取組を通じて、学校教育目標の達成を促進した。</p> <p>②学校教育目標の達成のために、指導計画を立案・実施し、学習指導、生徒指導、進路指導等を通して、生徒の個性を伸ばし、自主性や実践力を育成できた。</p> <p>③学校教育目標の達成に向け、他の教職員と協働し主体的に学校運営・教育課題の解決に取り組み、改善した。</p> <p>④保護者や地域社会との情報収集の機会を持ち、取りまとめた内容を教頭や校長に提供するとともに、学校の成果と課題を保護者や地域社会へ明確に示した。</p> <p>⑤教職員へ危機管理マニュアルの周知を積極的に図り、組織的な危機管理体制を築いた。</p>			
※独自の内容					
評価項目	着眼点		自己評価 A B	第一次 評価者 A B	第二次 評価者 A B
自己管理	<p>①教育公務員としての職責や義務（法令遵守や秘密の保持等）を自覚し、他の教職員の範となるよう職務に取り組んでいる。</p> <p>②自己を客観的に見て振り返り、前向きな行動をとっている。</p> <p>③児童生徒に対して効果的な教育活動を行うために、心身の健康を保ち、仕事と生活の充実を図ることで、人間性を高めるよう心がけている。</p>				
<p><b>項目別評価の基準</b>（各評価項目の観点ごとの評価で、職務の遂行状況を評価するもの）</p> <p>【S+】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導が必要ないレベルで、常に求められる水準以上の取組であった。</p> <p>【S】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導がほとんど必要ないレベルで、常に求められる水準の取組であった。</p> <p>【A】ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・指導を有効に生かし、求められる水準の取組であった。</p> <p>【B】本人の努力は認めるが、ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・支援がなければ職務を遂行しにくい状況が多く、求められる水準の取組が見られないことが多かった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p> <p>【C】すべての着眼点において、求められる水準の取組がほとんど見られず、周囲からの助言・支援がなければ職務遂行できないことが頻繁であった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p>					
評価者	所見及び今後の育成方針				
評価者	総合評価 S+ S A B C	総合評価をS以上又はB以下とする場合は、評価基準にしたがって具体的な理由（影響・効果等）を記載すること。			
<p><b>総合評価の基準</b>（すべての項目評価を通した上で、学校の活性化及び地域の教育の充実に対する貢献を評価するもの）</p> <p>ア S以上とする場合は、次の①又は②の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてS以上があり、B以下がないこと。独自の内容及び自己管理についてはB以下がないこと。</p> <p>イ B以下とする場合は、次の④又は⑤の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてB以下があり、S以上がないこと。</p> <p>①【S+】すべての評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者（教職員、児童生徒、保護者等。以下「関係者」という。）はもとより県全域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>②【S】多くの評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者はもとより地域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>③【A】求められる成果や取組があり、チームの一員としての役割を果たしていた。（他のいずれの区分にも当てはまらない場合）</p> <p>④【B】求められる成果や取組が見られないことがあり、校内及び地域の関係者に支障を及ぼすことが頻繁にあった。</p> <p>⑤【C】求められる成果や取組が見られないことが多く、校内及び地域の関係者に著しい支障を頻繁に及ぼした。</p>					
<p>※ 特色ある学校づくりの視点や学校教育目標との関係等から、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合は、事前に教職員に示し、自己目標を設定するよう指示するとともに、評価基準及び着眼点を作成し、速やかに教職員に示すことが必要。なお、着眼点及び着眼点の例は、勤務評価において活用するだけでなく、自己評価の設定において自己の振り返りに活用するため、当初に示す必要がある。</p>					



様式2-2【特別支援学校主幹教諭】

評価・育成シート

第二次評価者

所属				職名			ふりがな氏名		
通し番号	担当学年 (担当科目)			校務分掌					

第一次評価者

評価期間 年 月 日～ 年 月 日

評価項目	評価の観点	着眼点及び取組の例	自己評価	第一次評価者	第二次評価者
			S+ S A B C	S+ S A B C	S+ S A B C
学習指導	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】 幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）理解、課題解決、指導方法の創意・工夫、教職員や関係者等との連携、研修意欲</b></p> <p>①児童等一人一人の学習状況及び日常生活態度の変化に常に目を向け、積極的に児童等の理解に努めている。</p> <p>②児童等の障がいの実態を把握し、学習状況の改善に努めている。</p> <p>③学習へ興味・関心を高める教材の開発や指導方法の工夫・改善に努めている。</p> <p>④他の教職員の取組を継続的に支援し、主任等と連携し、教職員間の連携・協力を図るよう努めるとともに、学級担任や学年主任等へ助言・支援し、保護者や地域の関係者との適切な連携を図りながら、児童等の学習状況の改善に努めている。</p> <p>⑤自らの指導方法改善のための研修に努めるとともに、他の教職員の指導力向上を図る研修の推進者として努めている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】 児童等の理解、指導計画の作成・実施、知識技能の保有・活用、課題把握・課題解決、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①主任等と連携し、児童等の発達段階や障がいの実態、学習への興味・関心、学習の定着状況を把握している。</p> <p>②児童等の実態に即した個別の指導計画を作成し、取組を進めている。</p> <p>③授業のねらいを明確にした指導、教材の関連を捉えた指導、障がいの実態に応じた指導を行う等の専門的知識・技能を有し、授業に活用している。</p> <p>④学級担任や学年主任等と連携し、児童等一人一人の課題を共有しながら、課題解決に向けての取組を行っている。</p> <p>⑤課題解決に当たって、主任等と連携しながら問題点を整理し、適切な指導や支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】 教育目標の達成、各教科・領域の目標の達成、適切な支援、児童等の変容、指導方法・教材の工夫</b></p> <p>①学校経営方針に基づいて、指導目標を達成できた。</p> <p>②個別の指導計画に基づき適切に指導・評価を行い、各教科・領域の目標を達成できた。</p> <p>③評価の結果をもとに、個別に適切な支援を行うことができた。</p> <p>④児童等の学習への興味・関心を高め、学習への取組が向上した。</p> <p>⑤自ら率先して指導方法や教材を工夫し、他の教職員へも指導・助言することを通して指導力を向上させることができた。</p>			
生徒指導 進路指導	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】 公平な姿勢・態度、児童等の理解、課題解決、健康・安全への配慮、教職員や関係者等との連携、研修意欲</b></p> <p>①児童等に対し公平に接するよう努めている。</p> <p>②主任等と連携し、積極的に児童等とコミュニケーションをはかり、児童等の理解や関係づくりに努めている。</p> <p>③児童等のより良い自己実現をめざし、組織的な対応をリードしながら、生活指導や児童等の指導、進路指導に努めている。</p> <p>④主任等と連携し、児童等一人一人の心身の健康や安全に配慮し、指導や支援に当たろうとしている。</p> <p>⑤他の教職員の取組を継続的に支援し、主任等と連携しながら教職員間の連携・協力を図るよう努めるとともに、学級担任や学年主任等へ助言・支援し、保護者や地域の関係者等と協力体制を構築し、連携・連絡を深めながら、広く生活指導や児童等の指導、進路指導等に当たっている。</p> <p>⑥自ら児童等の理解のための研修に努めるとともに、他の教職員が生徒理解を深めることのできる研修の推進者として努めている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】 児童等の理解、指導計画の作成・実施、状況把握・判断力、対応力、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①主任等と連携しながらさまざまな方法を用いて、児童等一人一人の性格や行動、障がいの実態等についての理解を深める関わりを作っている。</p> <p>②主任等と連携を図りながら、児童等の発達段階や課題に応じた個別の指導計画を作成し、取組を進めている。</p> <p>③児童等の課題を適切に把握し、校内組織を活用しながら、必要な支援ができていく。</p> <p>④組織的対応をリードしながら、反社会的な行為や行動に対し、児童等の実態に応じた適切な指導を行っている。</p> <p>⑤課題解決に当たって、主任等と連携しながら問題点を整理し、適切な指導や支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】 教育目標の達成、健全な生活態度の育成、個別の支援による生活態度の改善、望ましい人間関係・集団の醸成、児童等が有する課題等への対応</b></p> <p>①学校経営方針に基づいて、指導目標を達成できた。</p> <p>②主任等と連携し、学校経営方針に基づく指導を適切に行い、健全な生活態度を育成できた。</p> <p>③主任等と連携し、児童等一人一人の課題に基づいた適切な支援を継続して行うことによって、生活態度の改善が図られた。</p> <p>④児童等と教職員とのコミュニケーションを広げ、良好な関係を築くことができた。</p> <p>⑤望ましい集団作りをめざした取組を率先して行い、児童等相互の良好な関係を築くことができた。</p> <p>⑥課題の発見や課題解決に向けての協力体制作りには尽くすなど、児童等への対応について組織を活用しながら適切に行った。</p>			

学校運営	意欲 姿勢	<p><b>【着眼点】経営参加、課題解決、活動参加、校務に対する責任感、教職員や関係者等との連携、研修意欲</b></p> <p>①学校経営方針を分かりやすく教職員に伝え、自らの校務について積極的に提案するとともに、教職員の取組を促すための支援や動機付けを行おうとしている。</p> <p>②教職員のリーダーとして他の教職員の意見をまとめ、積極的に課題を解決しようとしている。</p> <p>③学校行事や児童会・生徒会活動等の意義を理解し、分掌間の連携を図りながら、積極的に取り組もうとしている。</p> <p>④校務についての責任を自覚し、担当した校務や他の教職員の取組への支援を主体的に取り組もうとしている。</p> <p>⑤他の教職員の取組に対して分掌間、学年間の主任等の意見を取りまとめるとともに、保護者や地域の関係者等に対する校内の窓口となり、連携、協力で努めながら、学校運営上の取組に積極的に関わろうとしている。</p> <p>⑥自ら担当した校務等に係る研修に努めるとともに、自ら研修の推進者として努めている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】計画の作成・実施、調整力、企画力・創意工夫、校務処理、発想や判断の柔軟性、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①校長が示す学校経営方針を理解し、その実現のための具体策を考えるとともに、教頭を補佐しながら実施している。</p> <p>②校長及び教頭が的確かつ迅速に状況を捉え、校長が適切に判断を下せるよう教職員の意見をとりまとめている。</p> <p>③校長が求める学校経営の実現を目指し、先見性を持ち、教頭を補佐しながら、創意工夫を生かして企画・計画を行っている。</p> <p>④担当した校務を的確かつ効率的に処理している。</p> <p>⑤教育に関することのみならず、社会の幅広い情報を捉え、校長、教頭及び他の教職員に提供するとともに、学校運営に生かしている。</p> <p>⑥他の教職員の取組に関する課題を進んで把握し、自らの指導経験をふまえ、適切な指導、助言を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、自主性の育成、学校運営の改善、保護者・地域の協力、危機管理</b></p> <p>①他の教職員の取組に対する指導・助言を行い、校長が適切に判断を下せるよう補佐する取組を通じて、学校教育目標の達成を促進した。</p> <p>②学校教育目標の達成のために、指導計画を立案・実施し、学習指導、児童等の指導、進路指導等を通して、児童等の個性を伸ばし、自主性を育成できた。</p> <p>③学校教育目標の達成に向け、他の教職員と協働し主体的に学校運営・教育課題の解決に取り組み、改善した。</p> <p>④保護者や地域社会との情報収集の機会を持ち、取りまとめた内容を教頭や校長に提供するとともに、学校の成果と課題を保護者や地域社会へ明確に示した。</p> <p>⑤教職員へ危機管理マニュアルの周知を積極的に図り、組織的な危機管理体制を築いた。</p>			
※独自の内容					
評価項目	着眼点		自己評価 A B	第一次 評価者 A B	第二次 評価者 A B
自己管理	<p>①教育公務員としての職責や義務（法令遵守や秘密の保持等）を自覚し、他の教職員の範となるよう職務に取り組んでいる。</p> <p>②自己を客観的に見て振り返り、前向きな行動をとっている。</p> <p>③児童生徒に対して効果的な教育活動を行うために、心身の健康を保ち、仕事と生活の充実を図ることで、人間性を高めるよう心がけている。</p>				
<p><b>項目別評価の基準</b>（各評価項目の観点ごとの評価で、職務の遂行状況を評価するもの）</p> <p>【S+】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導が必要ないレベルで、常に求められる水準以上の取組であった。</p> <p>【S】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導がほとんど必要ないレベルで、常に求められる水準の取組であった。</p> <p>【A】ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・指導を有効に生かし、求められる水準の取組であった。</p> <p>【B】本人の努力は認めるが、ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・支援がなければ職務を遂行しにくい状況が多く、求められる水準の取組が見られないことが多かった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p> <p>【C】すべての着眼点において、求められる水準の取組がほとんど見られず、周囲からの助言・支援がなければ職務遂行できないことが頻繁であった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p>					
評価者	所見及び今後の育成方針				
評価者	総合評価 S+ S A B C	総合評価をS以上又はB以下とする場合は、評価基準にしたがって具体的な理由（影響・効果等）を記載すること。			
<p><b>総合評価の基準</b>（すべての項目評価を通した上で、学校の活性化及び地域の教育の充実に対する貢献を評価するもの）</p> <p>ア S以上とする場合は、次の①又は②の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてS以上があり、B以下がないこと。独自の内容及び自己管理についてはB以下がないこと。</p> <p>イ B以下とする場合は、次の④又は⑤の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてB以下があり、S以上がないこと。</p> <p>①【S+】すべての評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者（教職員、児童生徒、保護者等。以下「関係者」という。）はもとより県全域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>②【S】多くの評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者はもとより地域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>③【A】求められる成果や取組があり、チームの一員としての役割を果たしていた。（他のいずれの区分にも当てはまらない場合）</p> <p>④【B】求められる成果や取組が見られないことがあり、校内及び地域の関係者に支障を及ぼすことが頻繁にあった。</p> <p>⑤【C】求められる成果や取組が見られないことが多く、校内及び地域の関係者に著しい支障を頻繁に及ぼした。</p>					

※ 特色ある学校づくりの視点や学校教育目標との関係等から、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合は、事前に教職員に示し、自己目標を設定するよう指示するとともに、評価基準及び着眼点を作成し、速やかに教職員に示すことが必要。なお、着眼点及び着眼点の例は、勤務評価において活用するだけでなく、自己評価の設定において自己の振り返りに活用するため、当初に示す必要がある。

様式2-3【高等学校教諭等】

評価・育成シート

第二次評価者

所属	職名	第1期 教職経験1～5年	ふりがな 氏名
		第2期 教職経験6～10年	
		第3期 教職経験11年～	
通し 番号	担当学年 (担当科目)	校務 分掌	

第一次評価者

評価期間 年 月 日～ 年 月 日

評価項目	評価の 観点	着眼点及び取組の例	自己評価	第一次 評価者	第二次 評価者
			S+ S A B C	S+ S A B C	S+ S A B C
学習指導	意欲 姿勢	<p><b>【着眼点】生徒理解、課題解決、指導方法の工夫・改善、教職員間の連携、保護者との連携、研修意欲</b></p> <p>①生徒一人一人の学習状況及び日常生活態度の変化に常に目を向け、節度を保ちながら生徒理解に努めている。</p> <p>②生徒一人一人の学力の把握に努め、個々に応じた学習指導や、学習意欲の向上に努めている。</p> <p>③学習への関心・意欲を高める教材の開発や、指導方法の工夫・改善に努めている。</p> <p>④〔第1期〕他の教職員と連携・協力し、生徒の学習状況の改善に努めている。</p> <p>〔第2期〕他の教職員の課題解決に積極的に関わる等、広く生徒の学習状況の改善に努めている。</p> <p>〔第3期〕他の教職員の取組を継続的に支援し、生徒の学習状況の改善に努めるとともに、教職員間の連携・協力を図るよう努めている。</p> <p>⑤保護者との連絡を取り合い、生徒の学習状況の改善に努めている。</p> <p>⑥指導方法改善のための研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】生徒理解、指導計画の作成・実施、知識技能の保有・活用、課題把握・課題解決、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①生徒の学力、学習意欲、学習の定着状況を把握している。</p> <p>②生徒の実態に即した指導計画を作成し、取組を進めている。</p> <p>③授業のねらいを明確にした指導、教材の関連を捉えた指導を行う等、専門的知識・技能を有し、授業に活用している。</p> <p>④生徒一人一人の課題を把握し、課題解決に向けての支援を行っている。</p> <p>⑤他の教職員に対して、</p> <p>〔第1期〕課題解決の参考となる情報を収集し、提供している。</p> <p>〔第2期〕課題解決の参考となる具体的な提案を行っている。</p> <p>〔第3期〕課題解決に当たって問題点を整理し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、各教科の目標の達成、適切な支援による学習内容の定着、生徒の変容、指導方法・教材の工夫</b></p> <p>①学校教育目標、学年目標に即して、指導目標を達成できた。</p> <p>②指導計画に基づき適切に指導・評価を行い、各教科の目標を達成できた。</p> <p>③評価の結果をもとに適切な支援を行い、教科等の内容を定着させることができた。</p> <p>④生徒の学習意欲を高め、学習への取組が向上した。</p> <p>⑤他の教職員との連携のもと、教材や指導方法を工夫した。</p>			
生徒指導 進路指導	意欲 姿勢	<p><b>【着眼点】公平な姿勢・態度、生徒理解、課題解決、健康・安全への配慮、教職員間の連携、保護者との連携、研修意欲</b></p> <p>①生徒に対し公平に接している。</p> <p>②生徒に進んで声をかける等、生徒理解や生徒との関係づくりに努めている。</p> <p>③生徒のより良い自己実現をめざし、生徒指導・進路指導に努めている。</p> <p>④生徒一人一人の心身の健康や安全に配慮し、指導に当たっている。</p> <p>⑤〔第1期〕他の教職員と連携しながら、生徒指導・進路指導に当たっている。</p> <p>〔第2期〕他の教職員の課題解決に積極的に関わる等、広く生徒指導上や進路指導上の課題解決に当たっている。</p> <p>〔第3期〕他の教職員の取組を継続的に支援し、生徒指導上や進路指導上の課題解決に当たるとともに、教職員間の連携を図るよう努めている。</p> <p>⑥保護者との連携に努め、協力体制を構築するよう努めている。</p> <p>⑦生徒理解の研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】生徒理解、指導計画の作成・実施、状況把握・判断力、対応力、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①カウンセリングマインドを持って、一人一人の生徒の性格、希望、悩み等の理解を深める関わりを作っている。</p> <p>②生徒の発達段階や課題に応じた指導計画を作成し、取組を進めている。</p> <p>③課題を有する生徒の状況を適切に把握し、適切な対応を行っている。</p> <p>④反社会的な行為に対しては、毅然とした態度で対応している。</p> <p>⑤他の教職員に対して、</p> <p>〔第1期〕課題解決の参考となる情報を収集し、提供している。</p> <p>〔第2期〕課題解決の参考となる具体的な提案を行っている。</p> <p>〔第3期〕課題解決に当たって、問題点を整理し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、健全な生活態度の育成、個別の支援による生活態度の改善、望ましい人間関係・集団の醸成、課題を有する生徒への対応</b></p> <p>①学校教育目標、学年目標に即して、指導目標を達成できた。</p> <p>②他の教職員と連携し、指導計画に基づく指導を適切に行い、健全な生活態度を育成できた。</p> <p>③生徒一人一人の課題に基づき、個別に支援を行い、生活態度の改善が図られた。</p> <p>④生徒指導・進路指導を通して、生徒と教職員との良好な関係を築くことができた。</p> <p>⑤望ましい集団作りをめざした取り組み、指導を行い、生徒相互の良好な関係を築くことができた。</p> <p>⑥課題の早期発見や協力体制づくりを行うなど、生徒への対応を適切に行った。</p>			

学校運営	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】経営参加、課題解決、活動参加、校務に対する責任感、教職員間の連携、保護者・地域との連携、研修意欲</b></p> <p>①学校経営上の課題に対し、建設的な改善策を提案する等、学校運営に積極的に参加している。</p> <p>②学年部や教科部の経営、分掌する校務において、積極的に課題を解決しようとしている。</p> <p>③HR活動、学校行事、生徒会活動及び部活動等の意義を理解し、積極的に取り組んでいる。</p> <p>④校務についての責任を自覚し、学級経営や担当する校務に主体的に取り組んでいる。</p> <p>⑤他の教職員と連携し、学校運営上の取り組みに積極的に関わろうとしている。</p> <p>⑥保護者、地域との連携、協力を努めている。</p> <p>⑦学年部や教科部、担当する校務に当たって、研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】計画の作成・実施、調整力、企画力、校務処理、学級経営案作成・実施、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①経営上の課題や役割を理解し、相当する校務や学年部の計画に基づき取り組みを進めている。</p> <p>②校長や他の教職員等に対する報告・説明・相談を適切に行っている。</p> <p>③分掌した校務について、創意・工夫を生かして、課題に基づき適切な企画・計画を行っている。</p> <p>④計画的に効率よく校務を処理している。</p> <p>⑤学校教育目標や生徒の実態を踏まえた学級経営案を作成し、具体的な取組を進めている。</p> <p>⑥他の教職員の課題を共有し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、自主性・実践力の育成、学校運営の改善、保護者・地域の協力、学級経営案の評価・更新</b></p> <p>①学校教育目標を担当した校務の取り組みや学級経営の中で具現化し実現できた。また、HR活動、学校行事、生徒会活動、部活動等の指導を通じて、学校教育目標の達成が認められた。</p> <p>②学校教育目標等に沿って、指導計画を実施し、HR活動、学校行事、生徒会活動、部活動等を通して、生徒の個性を伸ばし、自主性や実践力を育成できた。</p> <p>③学校教育目標等に沿い、他の教職員との連携のもと、担当した校務や学級経営上の課題についての改善策を示す等、学校運営の改善を進めた。</p> <p>④分掌した校務の取り組みや学級経営に当たって、保護者や地域から理解や協力を得ることができた。</p> <p>⑤学級経営案に沿って実施するとともに、評価を行い、新たに課題を設定し取り組んだ。</p>			
※独自の内容					
評価項目	着眼点		自己評価 A B	第一次評価者 A B	第二次評価者 A B
自己管理	<p>①教育公務員としての職責や義務（法令遵守や秘密の保持等）を自覚し、職務に取り組んでいる。</p> <p>②自己を客観的に捉えるとともに、他者の助言を受け止め、改善に努めている。</p> <p>③児童生徒に対して効果的な教育活動を行うために、心身の健康を保ち、仕事と生活の充実を図ることで、人間性を高めるよう心がけている。</p>				
<p><b>項目別評価の基準</b>（各評価項目の観点ごとの評価で、職務の遂行状況を評価するもの）</p> <p>【S+】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導が必要ないレベルで、常に求められる水準以上の取組であった。</p> <p>【S】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導がほとんど必要ないレベルで、常に求められる水準の取組であった。</p> <p>【A】ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・指導を有効に生かし、求められる水準の取組であった。</p> <p>【B】本人の努力は認めるが、ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・支援がなければ職務を遂行しにくい状況が多く、求められる水準の取組が見られないことが多かった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p> <p>【C】すべての着眼点において、求められる水準の取組がほとんど見られず、周囲からの助言・支援がなければ職務遂行できないことが頻繁であった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p>					
評価者	所見及び今後の育成方針				
評価者	総合評価 S+ S A B C	総合評価をS以上又はB以下とする場合は、評価基準にしたがって具体的な理由（影響・効果等）を記載すること。			
<p><b>総合評価の基準</b>（すべての項目評価を通した上で、学校の活性化及び地域の教育の充実に対する貢献を評価するもの）</p> <p>ア S以上とする場合は、次の①又は②の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてS以上があり、B以下がないこと。独自の内容及び自己管理についてはB以下がないこと。</p> <p>イ B以下とする場合は、次の④又は⑤の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてB以下があり、S以上がないこと。</p> <p>①【S+】すべての評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者（教職員、児童生徒、保護者等。以下「関係者」という。）はもとより県全域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>②【S】多くの評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者はもとより地域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>③【A】求められる成果や取組があり、チームの一員としての役割を果たしていた。（他のいずれの区分にも当てはまらない場合）</p> <p>④【B】求められる成果や取組が見られないことがあり、校内及び地域の関係者に支障を及ぼすことが頻繁にあった。</p> <p>⑤【C】求められる成果や取組が見られないことが多く、校内及び地域の関係者に著しい支障を頻繁に及ぼした。</p>					
<p>※ 特色ある学校づくりの視点や学校教育目標との関係等から、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合は、事前に教職員に示し、自己目標を設定するよう指示するとともに、評価基準及び着眼点を作成し、速やかに教職員に示すことが必要。なお、着眼点及び着眼点の例は、勤務評価において活用するだけでなく、自己評価の設定において自己の振り返りに活用するため、当初に示す必要がある。</p>					

様式2-4【特別支援学校教諭等】

評価・育成シート

第二次評価者

所属	職名	第1期 教職経験1～5年	ふりがな氏名
		第2期 教職経験6～10年	
		第3期 教職経験11年～	
通し番号	担当学年(担当科目)	校務分掌	

第一次評価者

評価期間 年 月 日～ 年 月 日

評価項目	評価の観点	着眼点及び取組の例	自己評価	第一次評価者	第二次評価者
			S+ S A B C	S+ S A B C	S+ S A B C
学習指導	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】 幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）理解、課題解決、指導方法の創意・工夫、教職員や関係者等との連携、研修意欲</b></p> <p>①児童等一人一人の学習状況及び日常生活態度の変化に常に目を向け、節度を保ちながら、児童等の理解に努めている。</p> <p>②児童等の障がいの実態を把握し、学習状況の改善に努めている。</p> <p>③学習への興味・関心を高める教材の開発や指導方法の工夫・改善に努めている。</p> <p>④〔第1期〕他の教職員、保護者や地域の関係者等と連携・協力し、児童等の学習状況の改善に努めている。</p> <p>〔第2期〕他の教職員の課題解決に積極的にに関わり、保護者や地域の関係者と積極的に連携・協力し、広く児童等の学習状況の改善に努めている。</p> <p>〔第3期〕他の教職員の取組を継続的に支援し、教職員間の連携・協力を図るよう努めるとともに、保護者や地域の関係者との連携を深め、児童等の学習状況の改善に努めている。</p> <p>⑤指導方法改善のための研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】 児童等の理解、指導計画の作成・実施、知識・技能の保有・活用、課題把握・課題解決、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①児童等の発達段階や障がいの実態、学習への興味・関心、学習の定着状況を把握している。</p> <p>②児童等の実態に即した個別の指導計画を作成し、取り組みを進めている。</p> <p>③授業のねらいを明確にした指導、教材の関連を捉えた指導、障がいの実態に応じた指導を行う等の専門的知識・技能を有し、授業に活用している。</p> <p>④児童等一人一人の課題を把握し、課題解決に向けての支援を行っている。</p> <p>⑤他の教職員に対して、</p> <p>〔第1期〕課題解決の参考となる情報を収集し、提供している。</p> <p>〔第2期〕課題解決の参考となる具体的な提案を行っている。</p> <p>〔第3期〕課題解決に当たって、問題点を整理し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】 教育目標の達成、各教科・領域の目標の達成、適切な支援、児童等の変容、指導方法・教材の工夫</b></p> <p>①学校教育目標、学部目標、個別の指導計画に即して、指導目標を達成できた。</p> <p>②個別の指導計画に基づき適切に指導・評価を行い、各教科・領域の目標を達成できた。</p> <p>③評価の結果をもとに、個別に適切な支援を行うことができた。</p> <p>④児童等の学習への興味・関心を高め、学習への取組が向上した。</p> <p>⑤他の教職員との連携のもと、指導方法や教材を工夫した。</p>			
生徒指導 進路指導	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】 公平な姿勢・態度、児童等の理解、課題解決、健康・安全への配慮、教職員や関係者等との連携、研修意欲</b></p> <p>①児童等に対し公平に接している。</p> <p>②積極的に児童等とコミュニケーションをはかり、児童等の理解や関係づくりに努めている。</p> <p>③児童等のより良い自己実現をめざし、生活指導や児童等の指導、進路指導に努めている。</p> <p>④児童等一人一人の心身の健康や安全に配慮し、指導や支援に当たっている。</p> <p>⑤〔第1期〕他の教職員、保護者や地域の関係者等と協力体制を構築し、連携・連絡を取りながら、生活指導や児童等の指導、進路指導に当たっている。</p> <p>〔第2期〕他の教職員、保護者や地域の関係者等と協力体制を構築し、積極的に連携・連絡を取りながら、広く生活指導や児童等の指導、進路指導等に当たっている。</p> <p>〔第3期〕他の教職員の取り組みを継続的に支援し、教職員間の連携・協力を図るよう努めるとともに、保護者や地域の関係者等と協力体制を構築し、連携・連絡を深めながら、広く生活指導や児童等の指導、進路指導等に当たっている。</p> <p>⑥児童等の理解の研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】 児童等の理解、指導計画の作成・実施、状況把握・判断力、対応力、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①さまざまな方法を用いて、児童等一人一人の性格や行動、障がいの実態等についての理解を深める関わりを作っている。</p> <p>②児童等の発達段階や課題に応じた個別の指導計画を作成し、取組を進めている。</p> <p>③児童等の課題を適切に把握し、必要な支援ができています。</p> <p>④反社会的な行為や行動に対し、児童等の実態に応じた適切な指導を行っている。</p> <p>⑤他の教職員に対して、</p> <p>〔第1期〕課題解決の参考となる情報を収集し、提供している。</p> <p>〔第2期〕課題解決の参考となる具体的な提案を行っている。</p> <p>〔第3期〕課題解決に当たって、問題点を整理し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】 教育目標の達成、健全な生活態度の育成、個別の支援による生活態度の改善、望ましい人間関係・集団の醸成、児童等が有する課題等への対応</b></p> <p>①学校教育目標、学部目標、個別の指導計画に即して、指導目標を達成できた。</p> <p>②他の教職員と連携し、指導計画に基づく指導を適切に行い、健全な生活態度を育成できた。</p> <p>③児童等一人一人の課題に基づき、個別に支援を行い、生活態度の改善が図られた。</p> <p>④児童等と教職員とのコミュニケーションを広げ、良好な関係を築くことができた。</p> <p>⑤望ましい集団作りをめざした取組を行い、児童等相互の良好な関係を築くことができた。</p> <p>⑥課題の発見や課題解決に向けての協力体制づくりに尽くすなど、児童等への対応を適切に行った。</p>			

学校運営	意欲 姿勢	<p><b>【着眼点】経営参加、課題解決、活動参加、校務に対する責任感、教職員や関係者等との連携、研修意欲</b></p> <p>①学校経営上の課題に対し、建設的な改善策を提案する等、学校運営に積極的に参加している。</p> <p>②学部経営や分掌する校務において、積極的に課題を解決しようとしている。</p> <p>③学級活動またはHR活動、学校行事、児童会・生徒会活動、部活動等の意義を理解し、積極的に取り組んでいる。</p> <p>④校務についての責任を自覚し、学級運営や担当する校務に主体的に取り組んでいる。</p> <p>⑤他の教職員、保護者や地域の関係者等と連携・協力を努めながら、学校運営上の取組に積極的に関わろうとしている。</p> <p>⑥学部経営や担当する校務に当たって、研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】計画の作成・実施、調整力、企画力、校務処理、学級経営案等の作成・実施、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①経営上の課題や役割を理解し、担当する校務や学部等の年間計画に基づき取組を進めている。</p> <p>②校長や他の教職員等に対する報告・説明・相談を適切に行っている。</p> <p>③分掌した校務について、創意・工夫を生かして、課題に基づき適切な企画・計画を行っている。</p> <p>④計画的に効率よく校務を処理している。</p> <p>⑤学校教育目標や児童等の実態を踏まえた学級経営案や個別の指導計画を作成し、具体的な取組を進めている。</p> <p>⑥他の教職員の課題を共有し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、自主性の育成、学校運営の改善、保護者・地域の協力、学級経営案の評価・更新</b></p> <p>①学校教育目標を担当した校務の取組や学級経営の中で具現化し実現できた。また、学級活動またはHR活動、学校行事、児童会・生徒会活動、部活動等の指導を通じて、学校教育目標の達成が認められた。</p> <p>②学校教育目標等に沿って、指導計画を実施し、学級活動またはHR活動、児童会・生徒会活動、学校の行事、部活動等を通して、児童等の個性を伸ばし、自主性を育成できた。</p> <p>③学校教育目標等に沿い、他の教職員との連携のもと、担当した校務や学級経営上の課題についての改善策を示す等、学校運営の改善を進めた。</p> <p>④分掌した校務の取組や学級経営に当たって、保護者や地域、関係機関の理解や協力を得ることができた。</p> <p>⑤学級経営案に沿って実施するとともに、評価を行い、新たに課題を設定し取り組んだ。</p>			
※独自の内容					
評価項目	着眼点		自己評価 A B	第一次 評価者 A B	第二次 評価者 A B
自己管理	<p>①教育公務員としての職責や義務（法令遵守や秘密の保持等）を自覚し、職務に取り組んでいる。</p> <p>②自己を客観的に捉えるとともに、他者の助言を受け止め、改善に努めている。</p> <p>③児童生徒に対して効果的な教育活動を行うために、心身の健康を保ち、仕事と生活の充実を図ることで、人間性を高めるよう心がけている。</p>				
<p><b>項目別評価の基準</b>（各評価項目の観点ごとの評価で、職務の遂行状況を評価するもの）</p> <p>【S+】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導が必要ないレベルで、常に求められる水準以上の取組であった。</p> <p>【S】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導がほとんど必要ないレベルで、常に求められる水準の取組であった。</p> <p>【A】ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・指導を有効に生かし、求められる水準の取組であった。</p> <p>【B】本人の努力は認めるが、ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・支援がなければ職務を遂行しにくい状況が多く、求められる水準の取組が見られないことが多かった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p> <p>【C】すべての着眼点において、求められる水準の取組がほとんど見られず、周囲からの助言・支援がなければ職務遂行できないことが頻繁であった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p>					
評価者	所見及び今後の育成方針				
評価者	総合評価 S+ S A B C	総合評価をS以上又はB以下とする場合は、評価基準にしたがって具体的な理由（影響・効果等）を記載すること。			
<p><b>総合評価の基準</b>（すべての項目評価を通した上で、学校の活性化及び地域の教育の充実に対する貢献を評価するもの）</p> <p>ア S以上とする場合は、次の①又は②の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてS以上があり、B以下がないこと。独自の内容及び自己管理についてはB以下がないこと。</p> <p>イ B以下とする場合は、次の④又は⑤の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてB以下があり、S以上がないこと。</p> <p>①【S+】すべての評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者（教職員、児童生徒、保護者等。以下「関係者」という。）はもとより県全域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>②【S】多くの評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者はもとより地域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>③【A】求められる成果や取組があり、チームの一員としての役割を果たしていた。（他のいずれの区分にも当てはまらない場合）</p> <p>④【B】求められる成果や取組が見られないことがあり、校内及び地域の関係者に支障を及ぼすことが頻繁にあった。</p> <p>⑤【C】求められる成果や取組が見られないことが多く、校内及び地域の関係者に著しい支障を頻繁に及ぼした。</p>					
<p>※ 特色ある学校づくりの視点や学校教育目標との関係等から、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合は、事前に教職員に示し、自己目標を設定するよう指示するとともに、評価基準及び着眼点を作成し、速やかに教職員に示すことが必要。なお、着眼点及び着眼点の例は、勤務評価において活用するだけでなく、自己評価の設定において自己の振り返りに活用するため、当初に示す必要がある。</p>					

様式2-5【高等学校養護教諭】

評価・育成シート

第二次評価者

所属	職名	第1期 教職経験1～5年	ふりが
		第2期 教職経験6～10年	な
		第3期 教職経験11年～	氏名
通し番号			

第一次評価者

評価期間 年 月 日～ 年 月 日

評価項目	評価の観点	着眼点及び取組の例	自己評価	第一次評価者	第二次評価者
			S+ S A B C	S+ S A B C	S+ S A B C
保健管理	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】健康状態の把握、学校環境衛生の把握、教職員間の連携、関係機関等との連携、施設・設備・備品・書類等の管理、研修意欲</b></p> <p>①生徒に進んで声をかけ、生徒の健康状態の把握に努めている。                  ②積極的に学校の環境衛生状態の把握に努めている。                  ③〔第1期〕保健管理を円滑に進めるために、連携・協力を働きかけている。                  〔第2期〕保健管理を円滑に進めるため、校内の協力体制を確立するよう努めている。                  〔第3期〕保健管理を円滑に進めるため、教職員の連携・協力についての意識を高めるよう努めている。                  ④他の教職員や保護者、校医・薬剤師、関係機関との連携を図りながら、健康の保持増進、安全の確保に努めている。                  ⑤保健に関する設備、備品、書類等の整備に努めている。                  ⑥保健管理についての研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】健康状態・学校環境の把握、保健管理についての計画の作成・実施、知識技能の保有・活用（対人管理）、知識技能の保有・活用（対物管理）、情報の収集と発信、健康相談</b></p> <p>①生徒の心身の健康状態や学校の環境衛生状態が、適切に把握されている。                  ②保健管理に対する意義や背景を踏まえ、生徒の心身の健康管理と学校環境の管理に対し、適切な計画を作成し、取組を進めている。                  ③専門的知識・技能を有し、生徒が安全で健康的な生活を営むため、健康診断、伝染病や疾病の予防及び早期発見・対応、救急処置等、適切に保健室運営を行っている。                  ④生徒が安全で健康的な環境のもとで、学校生活を送られるよう、専門的知識・技能を生かして、保健室や教室等の衛生管理を適切に行っている。                  ⑤学校の課題に基づき整理した健康安全の情報を、適切に発信している。                  ⑥生徒からの相談等に対し、心身の観察及び問題背景の分析を行い、カウンセリングの技法を生かした支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、保健管理（対人管理）、保健管理（対物管理）、健康相談の充実、協力体制の整備</b></p> <p>①学校教育目標に即して、適切に保健に関する指導の目標を達成できた。                  ②生徒の健康状態を把握するとともに、他の教職員、保護者、校医・薬剤師、関係機関との連携を図りながら、適切に行うことができた。                  ③学校環境衛生検査及びその事後措置、施設設備の衛生管理等を校内の関係職員、学校薬剤師等と連携を図りながら、適切に行うことができた。                  ④養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談により、生徒に有効な支援ができた。                  ⑤心身の健康課題や事故の早期発見・早期対応に向けた協力体制が整備できた。</p>			
保健教育	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】公平な姿勢・態度、課題把握と解決、教職員間の連携、保護者・地域への啓発、研修意欲</b></p> <p>①生徒に対し公平に接している。                  ②生徒一人一人の健康課題を踏まえ、様々な機会を捉えて生徒との関係作りに努めている。                  ③〔第1期〕資料提供、教材作成の補助、チーム・ティーチングによる指導等、他の教職員と連携し、保健教育の充実に努ろうとしている。                  〔第2期〕資料提供、教材作成の補助、チーム・ティーチングによる指導等、他の教職員と積極的に連携し、保健教育の充実に努めている。                  〔第3期〕保健に関する指導についての教職員の理解を深めるとともに、連携・協力の方法を工夫し、保健教育の充実に努めている。                  ④保護者・地域に対して保健教育の啓発に努めている。                  ⑤保健教育の研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】健康課題の把握、指導及び課題解決、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①生徒の心身の健康状態等から、解決すべき健康課題が把握されている。                  ②専門的な立場から、生徒の発達段階や健康課題に応じた指導や、課題解決に向けての支援を行っている。                  ③〔第1期〕課題解決の参考となる情報を収集し、提供している。                  〔第2期〕課題解決の参考となる具体的な提案を行っている。                  〔第3期〕課題解決に当たって、問題点を整理し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、生徒の変容、健康課題への対応、保健教育の充実</b></p> <p>①学校教育目標に即して、保健に関する指導の目標を達成できた。                  ②生徒の健康・安全に対する意識を向上させるとともに、基本的な生活習慣を育成できた。                  ③生徒の心身の健康課題を的確に把握し、その解決に向けて、学校行事や生徒会活動等の場を活用し適切に対応できた。                  ④資料や情報の収集と担任や学年等への情報提供を積極的に行い、保健教育を充実させた。</p>			

学校運営	意欲 姿勢	<p><b>【着眼点】経営参加、課題解決、活動参加、職務に対する責任感、教職員間の連携、保護者・地域との連携、研修意欲</b></p> <p>①学校経営上の課題に対し、建設的な改善策を提案をする等、学校運営に積極的に参加している。</p> <p>②分掌した校務等において、積極的に課題を解決しようとしている。</p> <p>③学校行事及び生徒会活動等の意義を理解し、積極的に参加し取り組んでいる。</p> <p>④校務についての責任を自覚し、分掌する校務に主体的に取り組んでいる。</p> <p>⑤他の教職員と協力し、学校運営上の取り組みに積極的に関わろうとしている。</p> <p>⑥保護者、地域との連携、協力を努めている。</p> <p>⑦研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】計画の作成・実施、調整力、企画力、校務処理、保健室経営計画の作成・実施、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①経営上の課題や役割を理解し、分掌した校務、学校保健計画、学校保健委員会の年間計画の作成に関与し、計画に基づき取り組みを進めている。</p> <p>②分掌した校務や学校保健委員会の取り組みの遂行に際し、校長や他の教職員等に対する報告・説明・相談を適切におこなっている。</p> <p>③分掌した校務や学校保健委員会の取組について、創意・工夫を生かして、課題に基づき適切な企画・計画を行っている。</p> <p>④計画的に効率よく校務を処理している。</p> <p>⑤学校教育目標や生徒の実態を踏まえた保健室経営計画を作成し、具体的な取組を進めている。</p> <p>⑥他の教職員の課題を共有し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、自主性・実践力の育成、保護者・地域の協力、保健室経営計画の評価・更新</b></p> <p>①教育目標を分掌した校務や学校保健委員会の取組の中で具現化し実現できた。また、H R活動、学校行事、生徒会活動の指導を通じて、学校教育目標の達成が認められた。</p> <p>②学校教育目標に沿い、他の教職員との連携のもと、担当した校務や学校保健委員会の取組についての改善策を示す等、学校運営の改善を進めた。</p> <p>③分掌した校務や学校保健委員会等の取り組みに当たって、保護者や地域から理解や協力を得ることができた。</p> <p>④保健室経営計画に沿って実施するとともに、評価を行い、新たに課題を設定し取り組んだ。</p>			
※独自の内容					
評価項目	着眼点		自己評価 A B	第一次 評価者 A B	第二次 評価者 A B
自己管理	<p>①教育公務員としての職責や義務（法令遵守や秘密の保持等）を自覚し、職務に取り組んでいる。</p> <p>②自己を客観的に捉えるとともに、他者の助言を受け止め、改善に努めている。</p> <p>③児童生徒に対して効果的な教育活動を行うために、心身の健康を保ち、仕事と生活の充実を図ることで、人間性を高めるよう心がけている。</p>				
<p><b>項目別評価の基準</b>（各評価項目の観点ごとの評価で、職務の遂行状況を評価するもの）</p> <p>【S+】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導が必要ないレベルで、常に求められる水準以上の取組であった。</p> <p>【S】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導がほとんど必要ないレベルで、常に求められる水準の取組であった。</p> <p>【A】ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・指導を有効に生かし、求められる水準の取組であった。</p> <p>【B】本人の努力は認めるが、ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・支援がなければ職務を遂行しにくい状況が多く、求められる水準の取組が見られないことが多かった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p> <p>【C】すべての着眼点において、求められる水準の取組がほとんど見られず、周囲からの助言・支援がなければ職務遂行できないことが頻繁であった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p>					
評価者	所見及び今後の育成方針				
評価者	総合評価 S+ S A B C	総合評価をS以上又はB以下とする場合は、評価基準にしたがって具体的な理由（影響・効果等）を記載すること。			
<p><b>総合評価の基準</b>（すべての項目評価を通した上で、学校の活性化及び地域の教育の充実に対する貢献を評価するもの）</p> <p>ア S以上とする場合は、次の①又は②の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてS以上があり、B以下がないこと。独自の内容及び自己管理についてはB以下がないこと。</p> <p>イ B以下とする場合は、次の④又は⑤の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてB以下があり、S以上がないこと。</p> <p>①【S+】すべての評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者（教職員、児童生徒、保護者等。以下「関係者」という。）はもとより県全域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>②【S】多くの評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者はもとより地域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>③【A】求められる成果や取組があり、チームの一員としての役割を果たしていた。（他のいずれの区分にも当てはまらない場合）</p> <p>④【B】求められる成果や取組が見られないことがあり、校内及び地域の関係者に支障を及ぼすことが頻繁にあった。</p> <p>⑤【C】求められる成果や取組が見られないことが多く、校内及び地域の関係者に著しい支障を頻繁に及ぼした。</p>					

※ 特色ある学校づくりの視点や学校教育目標との関係等から、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合は、事前に教職員に示し、自己目標を設定するよう指示するとともに、評価基準及び着眼点を作成し、速やかに教職員に示すことが必要。なお、着眼点及び着眼点の例は、勤務評価において活用するだけでなく、自己評価の設定において自己の振り返りに活用するため、当初に示す必要がある。



様式2-6【特別支援学校養護教諭】

評価・育成シート

第二次評価者

所属	職名	第1期 教職経験1～5年	ふりがな
		第2期 教職経験6～10年	な
		第3期 教職経験11年～	氏名
通し番号			

第一次評価者

評価期間 年 月 日～ 年 月 日

評価項目	評価の観点	着眼点及び取組の例	自己評価	第一次評価者	第二次評価者
			S+ S A B C	S+ S A B C	S+ S A B C
保健管理	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】健康状態の把握、学校環境衛生状態の把握、教職員間の連携、関係機関等との連携、施設・設備・備品・書類等の管理、研修意欲</b></p> <p>①幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）に進んで声をかけ、一人一人の健康状態の把握に努めている。</p> <p>②積極的に学校の環境衛生状態の把握に努めている。</p> <p>③〔第1期〕保健管理を円滑に進めるため、連携・協力を働きかけている。</p> <p>〔第2期〕保健管理を円滑に進めるため、校内の協力体制を確立するよう努めている。</p> <p>〔第3期〕保健管理を円滑に進めるため、教職員の連携・協力についての意識を高めるよう努力している</p> <p>④他の教職員や保護者、校医・薬剤師、関係機関との連携を図りながら、心身の健康の保持増進、安全の確保に努めている。</p> <p>⑤保健に関する設備、備品、書類等の整備に努めている。</p> <p>⑥保健管理についての研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】健康状態・環境衛生状態の把握、保健管理についての計画の作成・実施、知識・技能の保有・活用（対人管理）、知識・技能の保有・活用（対物管理）、情報の収集と発信、健康相談、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①児童等の心身の健康状態や学校の環境衛生状態が適切に把握されている。</p> <p>②保健管理に対する意義や背景を踏まえ、児童等の心身の健康管理と学校環境の管理に対して、適切な計画を作成し、取組を進めている。</p> <p>③専門的知識・技能を有し、児童等が安全で健康的な生活を営むため、健康診断、伝染病や疾病の予防及び早期発見・対応、医療的ケアへの支援、救急処置等、適切に保健室運営を行っている。</p> <p>④児童等が安全で健康的な環境のもとで、学校生活が送られるよう、専門的知識・技能を生かして、保健室や教室等の環境整備や衛生管理を適切に行っている。</p> <p>⑤学校の課題に基づき整理した健康安全の情報を、適切に発信している。</p> <p>⑥児童等からの相談等に対し、心身の観察やカウンセリング等を行い、適切な支援を行っている。</p> <p>⑦〔第1期〕保健管理の視点から、課題解決の参考となる情報を収集し、提供している。</p> <p>〔第2期〕保健管理の視点から、課題解決の参考となる具体的な提案を行っている。</p> <p>〔第3期〕保健管理の視点から、課題解決に当たって、問題点を整理し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、保健管理（対人管理）、保健管理（対物管理）、健康相談の充実、協力体制の整備</b></p> <p>①学校教育目標に即して、適切に保健に関する指導の目標を達成できた。</p> <p>②児童等の健康状態や障がいの実態を把握するとともに、他の教職員、保護者、校医・薬剤師、関係機関との連携を図り、疾病予防、伝染病予防、救急処置等、適切に保健室運営を行うことができた。</p> <p>③学校環境衛生検査及びその事後措置、施設設備の衛生管理等を、校内の関係職員、学校薬剤師等と連携を図りながら、適切に行うことができた。</p> <p>④養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談により、児童等に有効な支援ができた。</p> <p>⑤心身の健康課題や事故の早期発見・早期対応に向けた協力体制が整備できた。</p>			
保健教育	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】公平な姿勢・態度、課題の把握と解決、教職員間の連携、保護者・地域への啓発、研修意欲</b></p> <p>①児童等に対し公平に接している。</p> <p>②積極的に児童等とコミュニケーションをはかり、児童等の理解や関係作り、保護者との関係作り等に努めている。</p> <p>③〔第1期〕資料や情報の提供、教材作成の支援、チーム・ティーチングによる指導、医療的ケアへの支援等、他の教職員と協力し、保健教育に取り組んでいる。</p> <p>〔第2期〕資料や情報の提供、教材作成の支援、チーム・ティーチングによる指導、医療的ケアへの支援等、他の教職員に積極的に働きかけ、保健教育の充実に努めている。</p> <p>〔第3期〕保健に関する指導についての教職員の理解を深めるとともに、連携・協力の工夫をし、保健教育の充実に努めている。</p> <p>④保護者・地域に対して学校保健の啓発に努めている。</p> <p>⑤保健教育や、児童等の疾病および障がいに関する研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】健康課題の把握、指導力・課題解決力</b></p> <p>①児童等の心身の健康状態や障がいの実態から、解決すべき健康課題が把握されている。</p> <p>②専門的な立場から、児童等の発達段階や健康課題、障がいの実態に応じた指導や、課題解決に向けての支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、児童等の変容、健康課題への対応、保健教育の充実</b></p> <p>①学校教育目標に即して、保健に関する指導の目標を達成できた。</p> <p>②児童等の健康・安全に対する意識を向上させるとともに基本的な生活習慣を確立・育成できた。</p> <p>③児童等の心身の健康課題を的確に把握し、その解決に向けて、教育活動のさまざまな場面を活用し適切に対応できた。</p> <p>④資料や情報の収集と担任や学年・学部等への情報提供を積極的に行い、保健教育を充実させた。</p>			

学校運営	意欲 姿勢	<p><b>【着眼点】経営参加、課題解決、活動参加、校務に対する責任感、教職員や関係者等との連携、研修意欲</b></p> <p>①学校経営上の課題に対し、建設的な改善策を提案する等、学校運営に積極的に参加している。</p> <p>②分掌した校務において、積極的に課題を解決しようとしている。</p> <p>③学校行事や児童会・生徒会活動等の意義を理解し、積極的に参加し取り組んでいる。</p> <p>④校務についての責任を自覚し、分掌する校務に主体的に取り組んでいる。</p> <p>⑤他の教職員、保護者や地域の関係者等と連携をはかり、学校運営上の取組に積極的に関わろうとしているか。</p> <p>⑥研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】計画の作成・実施、調整力、企画力、校務処理、保健室経営計画の作成・実施、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①経営上の課題や役割を理解し、分掌した校務、学校保健計画、学校保健委員会の年間計画の作成に関与し、計画に基づき取組を進めている。</p> <p>②分掌した校務の遂行に際し、校長や他の教職員に対する報告・説明・相談を適切に行っている。</p> <p>③分掌した校務の取組について、創意・工夫を生かして、課題に基づき適切な企画・計画を行っている。</p> <p>④計画的に効率よく校務を処理している。</p> <p>⑤学校教育目標や児童等の実態を踏まえた保健室経営計画を作成し、具体的な取り組みを進めている。</p> <p>⑥他の教職員の課題を共有し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、学校運営の改善、保護者・地域の協力、保健室経営計画の評価・更新</b></p> <p>①教育目標を分掌した校務等の取組の中で具現化し実現できた。また学級活動またはHR活動、学校行事、児童会・生徒会活動を通じて、学校教育目標の達成が認められた。</p> <p>②学校教育目標に沿い、他の教職員との連携のもと、分掌した校務等の取組についての改善策を示す等、学校運営の改善を進めた。</p> <p>③分掌した校務等の取り組みに当たって、保護者や地域等から理解や協力を得ることができた。</p> <p>④保健室経営計画に沿って実施するとともに、評価を行い、新たに課題を設定し取り組んだ。</p>			
※独自の内容					
評価項目	着眼点		自己評価 A B	第一次 評価者 A B	第二次 評価者 A B
自己管理	<p>①教育公務員としての職責や義務（法令遵守や秘密の保持等）を自覚し、職務に取り組んでいる。</p> <p>②自己を客観的に捉えるとともに、他者の助言を受け止め、改善に努めている。</p> <p>③児童生徒に対して効果的な教育活動を行うために、心身の健康を保ち、仕事と生活の充実を図ることで、人間性を高めるよう心がけている。</p>				
<p><b>項目別評価の基準</b>（各評価項目の観点ごとの評価で、職務の遂行状況を評価するもの）</p> <p>【S+】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導が必要ないレベルで、常に求められる水準以上の取組であった。</p> <p>【S】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導がほとんど必要ないレベルで、常に求められる水準の取組であった。</p> <p>【A】ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・指導を有効に生かし、求められる水準の取組であった。</p> <p>【B】本人の努力は認めるが、ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・支援がなければ職務を遂行しにくい状況が多く、求められる水準の取組が見られないことが多かった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p> <p>【C】すべての着眼点において、求められる水準の取組がほとんど見られず、周囲からの助言・支援がなければ職務遂行できないことが頻繁であった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p>					
評価者	所見及び今後の育成方針				
評価者	総合評価 S+ S A B C	総合評価をS以上又はB以下とする場合は、評価基準にしたがって具体的な理由（影響・効果等）を記載すること。			
<p><b>総合評価の基準</b>（すべての項目評価を通した上で、学校の活性化及び地域の教育の充実に対する貢献を評価するもの）</p> <p>ア S以上とする場合は、次の①又は②の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてS以上があり、B以下がないこと。独自の内容及び自己管理についてはB以下がないこと。</p> <p>イ B以下とする場合は、次の④又は⑤の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてB以下があり、S以上がないこと。</p> <p>①【S+】すべての評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者（教職員、児童生徒、保護者等。以下「関係者」という。）はもとより県全域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>②【S】多くの評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者はもとより地域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>③【A】求められる成果や取組があり、チームの一員としての役割を果たしていた。（他のいずれの区分にも当てはまらない場合）</p> <p>④【B】求められる成果や取組が見られないことがあり、校内及び地域の関係者に支障を及ぼすことが頻繁にあった。</p> <p>⑤【C】求められる成果や取組が見られないことが多く、校内及び地域の関係者に著しい支障を頻繁に及ぼした。</p>					

※ 特色ある学校づくりの視点や学校教育目標との関係等から、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合は、事前に教職員に示し、自己目標を設定するよう指示するとともに、評価基準及び着眼点を作成し、速やかに教職員に示すことが必要。なお、着眼点及び着眼点の例は、勤務評価において活用するだけでなく、自己評価の設定において自己の振り返りに活用するため、当初に示す必要がある。

様式2-7【特別支援学校栄養教諭】

評価・育成シート

第二次評価者

所属	職名	第1期 教職経験1～5年	ふりがな	氏名
		第2期 教職経験6～10年		
		第3期 教職経験11年～		
通し番号				

第一次評価者

評価期間 年 月 日～ 年 月 日

評価項目	評価の観点	着眼点及び取組の例	自己評価 S+ S A B C	第一次評価者 S+ S A B C	第二次評価者 S+ S A B C
食に関する指導	意欲姿勢	<p>【着眼点】公平な姿勢・態度、食に関する課題把握、課題解決、教職員間の協力・支援、家庭・地域社会への啓発、研修意欲</p> <p>①幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）に対し偏った見方をせず、公平に接している。</p> <p>②児童等に進んで声をかけ、児童等の理解と児童等との関係作りに努めている。</p> <p>③食に関する課題を有する児童等の課題の解決等をめざし、児童等、保護者、担任等との関係作りに努めている。</p> <p>④〔第1期〕資料提供、教材作成の補助及びチーム・ティーチングによる指導等により、他の教職員と協力して、食に関する指導に取り組んでいる。</p> <p>〔第2期〕資料提供、教材作成の補助及びチーム・ティーチングによる指導等について、他の教職員に積極的に働き掛け、食に関する指導の充実を努めている。</p> <p>〔第3期〕食に関する指導についての教職員の理解を深めるとともに、連携・協力の方法を工夫し、食に関する指導の充実を努めている。</p> <p>⑤家庭・地域に対して望ましい食生活の啓発に努めている。</p> <p>⑥食に関する指導の研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p>【着眼点】食に関する課題把握、指導計画の策定・実施、指導力、課題等の把握・相談指導、関係機関との連携、他の教職員に対する協力・支援、食に関する取組の企画・参画</p> <p>①児童等の健康状態、生活実態、家庭環境等から、解決すべき食に関する課題が把握されている。</p> <p>②学校教育目標等に基づき、児童等の実態を踏まえて、全体計画及び年間指導計画を策定し、他の教職員と連携して取組を進めている。</p> <p>③児童等が、自らの食に関する課題等について考えたり、広く食に関する問題について考えることができるよう発達段階に応じた指導を行っている。</p> <p>④食に関する課題を有する児童等、食物アレルギー等の事情を抱える児童等の実態を把握し、児童等及び保護者に適切な相談指導を行っている。</p> <p>⑤食物アレルギー等の医学的な対応を要するものについて、主治医や専門医と密接に連携を取り、適切に対応している。</p> <p>⑥〔第1期〕課題解決等の参考となる情報を収集し、提供している。</p> <p>〔第2期〕課題解決等の参考となる具体的な提案を行っている。</p> <p>〔第3期〕課題解決等に当たって、問題点を整理し、適切な助言を行っている。</p> <p>⑦家庭や地域社会を対象とした食に関する意識の高揚を図る取組を企画したり、食に関する行事に参画している。</p>			
	実績	<p>【着眼点】教育目標の達成、児童等の変容、食に関する課題への対応、家庭等の意識の高揚、食に関する指導の充実</p> <p>①学校教育目標に即して、食に関する指導の目標を達成できた。</p> <p>②児童等の食に関する意識を向上させるとともに、望ましい食習慣の獲得に向けた実践的な態度を育成できた。</p> <p>③児童等の食に関する課題を的確に把握し、その解決に向けて、特別活動、学校保健委員会、給食の時間等の場を活用し適切に対応できた。</p> <p>④家庭等において食に関する意識が高まり、食生活の改善が図られた。</p> <p>⑤食に関する情報の収集と担任や学年等への情報提供を積極的に行い、食に関する指導を充実させた。</p>			
学校給食の管理	意欲姿勢	<p>【着眼点】食生活の把握、情報の収集と提供、職員間の協力、関係機関等との連携、施設・設備の管理、研修意欲</p> <p>①課題意識を持ち、残食量、嗜好等の給食の実態や家庭、地域の食生活の実態等の把握に努めている。</p> <p>②栄養管理・衛生管理を適切に行うために、広範な情報の収集と児童等、教職員、調理場職員への情報の提供に努めている。</p> <p>③給食管理を円滑に進めるため、校内・調理場内の協力体制を確立するよう努めている。</p> <p>④他の教職員、家庭、関係機関との連携を図りながら安全な給食の実施に努めている。</p> <p>⑤衛生管理、労働安全の確保、作業能率の向上等の面から、計画的な施設・設備の配置、改善等の指導・助言に努めている。</p> <p>⑥給食管理に関わる広範な事柄について、研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p>【着眼点】食生活の把握、献立計画の作成、知識・技能の保有・活用、衛生管理、環境整備</p> <p>①児童等の食生活の課題が適切に把握されている。</p> <p>②児童等の実態に即し、食品の選定や調理方法に工夫を加え、食生活の改善が図られる生きた教材となり得る献立計画を作成している。</p> <p>③広範な専門的知識・技能を活用し、給食に関する運営を適切に行っている。</p> <p>④食品の貯蔵・保管、施設・設備・食器具類の衛生管理を適切に行うとともに、関係職員や納入業者等の衛生管理について適切な指導を行っている。</p> <p>⑤児童等が楽しく安全に食事ができるような環境整備や給食管理を行っている。</p>			
	実績	<p>【着眼点】健康づくり、給食の運営・改善、協力体制の整備</p> <p>①学校給食の食事摂取状況や家庭、地域の食生活の実態を把握し、適切な給食管理を行い、児童等の健康づくりを推進した。</p> <p>②学校給食衛生管理基準に基づいて、衛生管理に関する事項の点検や記録を行い、適切な給食の運営を行うとともに、関係者から広く意見を求め改善を図った。</p> <p>③給食管理に適切でない事態の早期発見・早期対応に向けて、校内・調理場内の協力体制を整備するとともに、目的・内容の周知を図った。</p>			

学校運営	意欲 姿勢	<p><b>【着眼点】経営参加、課題解決、活動参加、校務に対する責任感、教職員間の協力、家庭・地域との連携、研修意欲</b></p> <p>①学校経営上の課題に対し、建設的な改善策を提案する等、学校運営に積極的に参加している。</p> <p>②分掌した校務等の取組において、積極的に課題を解決しようとしている。</p> <p>③学校行事及び児童会・生徒会活動等の意義を理解し、積極的に取り組んでいる。</p> <p>④校務についての責任を自覚し、分掌した校務に主体的に取り組んでいる。</p> <p>⑤他の教職員と協力し、学校運営上の取組に積極的に関わろうとしている。</p> <p>⑥「開かれた学校づくり」のため、保護者、地域との連携、協力を努めている。</p> <p>⑦分掌した校務に当たって、研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】計画の作成・実施、調整力、企画力、校務処理、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①経営上の課題や役割を理解し、分掌した校務、学校給食に関する基本計画の策定に参画し、計画に基づき取組を進めている。</p> <p>②分掌した校務等の取組の遂行に際し、校長や他の教職員等に対する報告・説明・相談を適切に行っている。</p> <p>③分掌した校務等の取組について、創意・工夫を生かして、課題に基づき適切な企画・計画を行っている。</p> <p>④計画的に効率よく校務を処理している。</p> <p>⑤他の教職員の課題を共有し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、自主性・実践力の育成、学校運営の改善、家庭・地域の協力</b></p> <p>①教育目標を分掌した校務や学校保健委員会の取組の中で具現化し実現できた。また、学級活動、学校行事、児童会・生徒会活動等の指導を通じて、学校教育目標の達成が認められた。</p> <p>②学校経営方針に沿って、指導計画を実施し、児童会・生徒会活動、学校行事等を通して、児童等の個性を伸ばし、自主性や実践力を育成できた。</p> <p>③学校経営方針に沿い、他の教職員との連携のもと、分掌した校務等の取組についての改善策を示す等、学校運営の改善を進めた。</p> <p>④分掌した校務等の取組に当たって、家庭や地域の理解や協力を得ることができた。</p>			
※独自の内容					
評価項目	着眼点		自己評価 A B	第一次 評価者 A B	第二次 評価者 A B
自己管理	<p>①教育公務員としての職責や義務（法令遵守や秘密の保持等）を自覚し、職務に取り組んでいる。</p> <p>②自己を客観的に捉えるとともに、他者の助言を受け止め、改善に努めている。</p> <p>③児童生徒に対して効果的な教育活動を行うために、心身の健康を保ち、仕事と生活の充実を図ることで、人間性を高めるよう心がけている。</p>				
<p><b>項目別評価の基準</b>（各評価項目の観点ごとの評価で、職務の遂行状況を評価するもの）</p> <p>【S+】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導が必要ないレベルで、常に求められる水準以上の取組であった。</p> <p>【S】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導がほとんど必要ないレベルで、常に求められる水準の取組であった。</p> <p>【A】ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・指導を有効に生かし、求められる水準の取組であった。</p> <p>【B】本人の努力は認めるが、ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・支援がなければ職務を遂行しにくい状況が多く、求められる水準の取組が見られないことが多かった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p> <p>【C】すべての着眼点において、求められる水準の取組がほとんど見られず、周囲からの助言・支援がなければ職務遂行できないことが頻繁であった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。</p>					
評価者	所見及び今後の育成方針				
評価者	総合評価 S+ S A B C	総合評価をS以上又はB以下とする場合は、評価基準にしたがって具体的な理由（影響・効果等）を記載すること。			
<p><b>総合評価の基準</b>（すべての項目評価を通した上で、学校の活性化及び地域の教育の充実に対する貢献を評価するもの）</p> <p>ア S以上とする場合は、次の①又は②の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてS以上があり、B以下がないこと。独自の内容及び自己管理についてはB以下がないこと。</p> <p>イ B以下とする場合は、次の④又は⑤の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてB以下があり、S以上がないこと。</p> <p>①【S+】すべての評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者（教職員、児童生徒、保護者等。以下「関係者」という。）はもとより県全域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>②【S】多くの評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者はもとより地域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。</p> <p>③【A】求められる成果や取組があり、チームの一員としての役割を果たしていた。（他のいずれの区分にも当てはまらない場合）</p> <p>④【B】求められる成果や取組が見られないことがあり、校内及び地域の関係者に支障を及ぼすことが頻繁にあった。</p> <p>⑤【C】求められる成果や取組が見られないことが多く、校内及び地域の関係者に著しい支障を頻繁に及ぼした。</p>					

※ 特色ある学校づくりの視点や学校教育目標との関係等から、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合は、事前に教職員に示し、自己目標を設定するよう指示するとともに、評価基準及び着眼点を作成し、速やかに教職員に示すことが必要。なお、着眼点及び着眼点の例は、勤務評価において活用するだけでなく、自己評価の設定において自己の振り返りに活用するため、当初に示す必要がある。

様式2-8【実習主任】

評価・育成シート

第二次評価者

所属				職名			ふりがな氏名		
通し番号		担当学年 (担当科目)		校務分掌					

第一次評価者

評価期間 年 月 日～ 年 月 日

評価項目	評価の観点	着眼点及び取組の例	自己評価 S+ S A B C	第一次評価者 S+ S A B C	第二次評価者 S+ S A B C
授業・事務	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】公正な姿勢・態度、児童等の理解、環境の整備、創意・工夫、教職員間の連携、研修意欲</b></p> <p>①幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）に対して、公平に接している。                  ②児童等一人一人の学習や生活の態度の変化に常に目を向け、児童等の理解に努めている。                  ③安全で快適な環境で授業が行えるよう、実習等で使用する設備、教材、薬品、器具、工具等の整備・管理及び実習室等の環境整備に努めている。                  ④授業の内容を高めるため、創意・工夫して教諭の職務を補助している。                  ⑤他の教職員と協力し、授業や児童等の指導に努めている。                  ⑥自己の職務におけるより高度な専門的知識及び技能の向上を図るため、資料や情報の収集を積極的に行い、研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】児童等の理解、専門的知識・技能の保有、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①実習等の授業の実施に当たって、安全への配慮を行うとともに、児童等の陥りやすい誤り等を予見し、未然に防止するなど、適切に行っている。                  ②実習等に関する施設・設備の維持・管理、各種薬品・材料等の特性など職務におけるより高度な専門的知識及び技能を有している。                  ③他の教職員の課題を共有し、経験に基づいて適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、事前準備・事後処理、指導方法等の工夫・改善</b></p> <p>①学校教育目標、学年目標等に即して、他の教職員と連携して、指導目標を達成できた。                  ②実習等の授業の事前準備や事後処理が適切に行われ、指導計画に従った円滑な授業の進行ができた。                  ③児童等の実態に応じて、施設・設備の適切な整備・管理、教材・教具等の工夫を行い、担当教諭と連携しながら指導を行った。</p>			
学校運営	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】経営参加、課題解決、活動参加、校務に対する責任感、保護者・地域との連携、研修意欲</b></p> <p>①学校経営上の課題に対し、分掌する校務等において、建設的な改善策を提案する等、学校運営に積極的に参加し、自らの役割を果たすよう努めている。                  ②分掌する校務において、積極的に課題解決に参加している。                  ③学校行事や児童会・生徒会活動、部活動等の意義を理解し、活動に積極的に参加している。                  ④校務についての責任を自覚し、分掌する校務に主体的に取り組んでいる。                  ⑤保護者、地域との連携、協力を努めている。                  ⑥分掌する校務等において、研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】計画の実施・援助、校務処理、教職員間の連携、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①分掌等の年間計画に基づき、主任として自覚を持って取り組みを進めている。                  ②計画的に効率よく校務を処理している。                  ③他の教職員と連携し、学校運営上の取り組みに主任として積極的に関わっている。                  ④他の教職員の課題を共有し、経験に基づいた適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】教育目標の達成、施設・設備等の維持管理、学校運営の改善、保護者・地域の協力</b></p> <p>①分掌した校務の取り組みや学校行事、児童会・生徒会活動、部活動等の指導を通じて、学校教育目標の達成が認められた。                  ②担当する施設・設備等の整備・管理を適切に行うことができた。                  ③学校教育目標等に沿い、他の教職員との連携のもと、分掌した校務の課題について改善に取り組む等、学校運営の改善のため、自らの役割を果たした。                  ④分掌した校務の取り組みに当たって、保護者や地域の理解や協力を得ることができた。</p>			
※独自の内容					

評価項目	着眼点	自己評価 A B	第一次 評価者 A B	第二次 評価者 A B
自己管理	①教育公務員としての職責や義務（法令遵守や秘密の保持等）を自覚し、職務に取り組んでいる。 ②自己を客観的に捉えるとともに、他者の助言を受け止め、改善に努めている。 ③児童生徒に対して効果的な教育活動を行うために、心身の健康を保ち、仕事と生活の充実を図ることで、人間性を高めるよう心がけている。			
<b>項目別評価の基準</b> （各評価項目の観点ごとの評価で、職務の遂行状況を評価するもの） 【S+】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導が必要ないレベルで、常に求められる水準以上の取組であった。 【S】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導がほとんど必要ないレベルで、常に求められる水準の取組であった。 【A】ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・指導を有効に生かし、求められる水準の取組であった。 【B】本人の努力は認めるが、ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・支援がなければ職務を遂行しにくい状況が多く、求められる水準の取組が見られないことが多かった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。 【C】すべての着眼点において、求められる水準の取組がほとんど見られず、周囲からの助言・支援がなければ職務遂行できないことが頻繁であった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。				
評価者	所見及び今後の育成方針			
評価者	総合評価 S+ S A B C	総合評価をS以上又はB以下とする場合は、評価基準にしたがって具体的な理由（影響・効果等）を記載すること。		
<b>総合評価の基準</b> （すべての項目評価を通した上で、学校の活性化及び地域の教育の充実に対する貢献を評価するもの） ア S以上とする場合は、次の①又は②の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてS以上があり、B以下がないこと。独自の内容及び自己管理についてはB以下がないこと。 イ B以下とする場合は、次の④又は⑤の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてB以下があり、S以上がないこと。 ①【S+】すべての評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者（教職員、児童生徒、保護者等。以下「関係者」という。）はもとより県全域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。 ②【S】多くの評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者はもとより地域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。 ③【A】求められる成果や取組があり、チームの一員としての役割を果たしていた。（他のいずれの区分にも当てはまらない場合） ④【B】求められる成果や取組が見られないことがあり、校内及び地域の関係者に支障を及ぼすことが頻繁にあった。 ⑤【C】求められる成果や取組が見られないことが多く、校内及び地域の関係者に著しい支障を頻繁に及ぼした。				

※ 特色ある学校づくりの視点や学校教育目標との関係等から、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合は、事前に教職員に示し、自己目標を設定するよう指示するとともに、評価基準及び着眼点を作成し、速やかに教職員に示すことが必要。なお、着眼点及び着眼点の例は、勤務評価において活用するだけでなく、自己評価の設定において自己の振り返りに活用するため、当初に示す必要がある。

様式2-9【実習助手】

評価・育成シート

第二次評価者

所属			職名			ふりがな氏名		
通し番号		担当学年 (担当科目)		校務分掌				

第一次評価者

評価期間 年 月 日～ 年 月 日

評価項目	評価の観点	着眼点及び取組の例	自己評価 S+ S A B C	第一次評価者 S+ S A B C	第二次評価者 S+ S A B C
授業・事務	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】 公正な姿勢・態度、児童等の理解・姿勢、環境の整備、創意・工夫、教職員間の連携、研修意欲</b></p> <p>①幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）に対して、公平に接している。                  ②児童等一人一人の学習や生活の態度の変化に常に目を向け、児童等の理解に努めている。                  ③安全で快適な環境で授業が行えるよう、実習等で使用する設備、教材、薬品、器具、工具等の整備・管理及び実習室等の環境整備に努めている。                  ④授業の内容を高めるため、創意・工夫して教諭の職務を補助している。                  ⑤他の教職員と協力し、授業や児童等の指導に努めている。                  ⑥自己の職務における専門的知識及び技能の向上を図るため、資料や情報の収集を積極的に行い、研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】 児童等の理解、専門的知識・技能の保有、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①実習等の授業の実施に当たって、安全への配慮を行うとともに、児童等の陥りやすい誤り等を予見し、未然に防止するなど、適切に行っている。                  ②実習等に関する施設・設備の維持・管理、各種薬品・材料等の特性など職務における専門的知識及び技能を有している。                  ③他の教職員の課題を共有し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】 教育目標の達成、事前準備・事後処理、指導方法等の工夫・改善</b></p> <p>①学校教育目標、学年目標等に即して、他の教職員と連携して、指導目標を達成できた。                  ②実習等の授業の事前準備や事後処理が適切に行われ、指導計画に従った円滑な授業の進行ができた。                  ③児童等の実態に応じて、施設・設備の適切な整備・管理、教材・教具等の工夫を行い、担当教諭と連携しながら指導を行った。</p>			
学校運営	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】 経営参加、課題解決、活動参加、校務に対する責任感、保護者・地域との連携、研修意欲</b></p> <p>①学校経営上の課題に対し、分掌する校務等において、建設的な改善策を提案する等、学校運営に積極的に参加し、自らの役割を果たすよう努めている。                  ②分掌する校務において、積極的に課題解決に参加している。                  ③学校行事や児童会・生徒会活動、部活動等の意義を理解し、活動に積極的に参加している。                  ④校務についての責任を自覚し、分掌する校務に主体的に取り組んでいる。                  ⑤保護者、地域との連携、協力に努めている。                  ⑥分掌する校務等において、研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】 計画の実施・援助、校務処理、教職員間の連携、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①分掌等の年間計画に基づき、取り組みを進めている。                  ②計画的に効率よく校務を処理している。                  ③他の教職員と連携し、学校運営上の取り組みに積極的に関わっている。                  ④他の教職員の課題を共有し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】 教育目標の達成、施設・設備等の維持管理、学校運営の改善、保護者・地域の協力</b></p> <p>①分掌した校務の取り組みや学校行事、児童会・生徒会活動、部活動等の指導を通じて、学校教育目標の達成が認められた。                  ②担当する施設・設備等の整備・管理を適切に行うことができた。                  ③学校教育目標等に沿い、他の教職員との連携のもと、分掌した校務の課題についての改善に取り組む等、学校運営の改善のため、自らの役割を果たした。                  ④分掌した校務の取り組みに当たって、保護者や地域の理解や協力を得ることができた。</p>			
※独自の内容					

評価項目	着眼点	自己評価 A B	第一次 評価者 A B	第二次 評価者 A B
自己管理	①教育公務員としての職責や義務（法令遵守や秘密の保持等）を自覚し、職務に取り組んでいる。 ②自己を客観的に捉えるとともに、他者の助言を受け止め、改善に努めている。 ③児童生徒に対して効果的な教育活動を行うために、心身の健康を保ち、仕事と生活の充実を図ることで、人間性を高めるよう心がけている。			
<b>項目別評価の基準</b> （各評価項目の観点ごとの評価で、職務の遂行状況を評価するもの） 【S+】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導が必要ないレベルで、常に求められる水準以上の取組であった。 【S】すべての着眼点において、周囲からの助言・指導がほとんど必要ないレベルで、常に求められる水準の取組であった。 【A】ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・指導を有効に生かし、求められる水準の取組であった。 【B】本人の努力は認めるが、ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・支援がなければ職務を遂行しにくい状況が多く、求められる水準の取組が見られないことが多かった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。 【C】すべての着眼点において、求められる水準の取組がほとんど見られず、周囲からの助言・支援がなければ職務遂行できないことが頻繁であった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。				
評価者	所見及び今後の育成方針			
評価者	総合評価 S+ S A B C	総合評価をS以上又はB以下とする場合は、評価基準にしたがって具体的な理由（影響・効果等）を記載すること。		
<b>総合評価の基準</b> （すべての項目評価を通した上で、学校の活性化及び地域の教育の充実に対する貢献を評価するもの） ア S以上とする場合は、次の①又は②の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてS以上があり、B以下がないこと。独自の内容及び自己管理についてはB以下がないこと。 イ B以下とする場合は、次の④又は⑤の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてB以下があり、S以上がないこと。 ①【S+】すべての評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者（教職員、児童生徒、保護者等。以下「関係者」という。）はもとより県全域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。 ②【S】多くの評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者はもとより地域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。 ③【A】求められる成果や取組があり、チームの一員としての役割を果たしていた。（他のいずれの区分にも当てはまらない場合） ④【B】求められる成果や取組が見られないことがあり、校内及び地域の関係者に支障を及ぼすことが頻繁にあった。 ⑤【C】求められる成果や取組が見られないことが多く、校内及び地域の関係者に著しい支障を頻繁に及ぼした。				

※ 特色ある学校づくりの視点や学校教育目標との関係等から、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合は、事前に教職員に示し、自己目標を設定するよう指示するとともに、評価基準及び着眼点を作成し、速やかに教職員に示すことが必要。なお、着眼点及び着眼点の例は、勤務評価において活用するだけでなく、自己評価の設定において自己の振り返りに活用するため、当初に示す必要がある。



様式2-10【主任寄宿舎指導員】

評価・育成シート

第二次評価者

所属			職名			ふりがな氏名		
通し番号	担当学年 (担当科目)			校務分掌				

第一次評価者

印

評価期間 年 月 日～ 年 月 日

評価項目	評価の観点	着眼点及び取組の例	自己評価	第一次評価者	第二次評価者
			S+ S A B C	S+ S A B C	S+ S A B C
寄宿舎生の指導	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】 公平な姿勢・態度、寄宿舎生理解、創意・工夫、健康・安全等への配慮、教職員や関係者等との連携、研修意欲</b></p> <p>①寄宿舎生に対し、公平に接している。                  ②積極的に寄宿舎生とコミュニケーションをはかり、寄宿舎生の理解や関係作りに努めている。                  ③寄宿舎生の基本的な生活習慣の確立や、自主性の育成のため、指導方法の創意・工夫に努めている。                  ④寄宿舎生一人一人の障がいの状態を把握し、健康や安全に配慮し、適切な指導や支援を行っている。                  ⑤学級担任や他の教職員、保護者や地域の関係者等と連携し、協力を得ながら寄宿舎生の指導に当たっている。                  ⑥寄宿舎生の障がいの理解等について研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】 寄宿舎生理解、寄宿舎行事等の計画・実施、障がい等の把握・適切な支援、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①寄宿舎生の発達段階や障がいの状況、生活の状況等を的確に捉えている。                  ②寄宿舎生の実態や発達段階に即し、舎生会活動や寄宿舎行事等を計画・実施している。                  ③寄宿舎生の健康や障がいの状態、興味・関心等を把握し、必要な支援を適切に行っている。                  ④他の教職員の課題を共有し、経験や実績に基づいて、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】 寄宿舎目標等の達成、寄宿舎生の日常生活の世話及び指導、望ましい人間関係の醸成、寄宿舎生の障がい等への対応</b></p> <p>①学校教育目標に即して、寄宿舎目標を達成できた。                  ②寄宿舎生の障がいの状態等を的確に把握し、日常生活の世話及び生活指導を適切に行うことができた。                  ③寄宿舎生とのコミュニケーションをはかり、良好な関係を築くことができた。                  ④寄宿舎生の障がいの状態を的確に把握し、指導や対応を適切に行った。</p>			
学校運営	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】 経営参加、課題解決、校務・舎務に対する責任感、教職員や関係者等との連携、研修意欲</b></p> <p>①寄宿舎経営上の課題に対し、建設的な提案をする等、寄宿舎運営の中心となって積極的に参加している。                  ②寄宿舎経営や分掌する校務・舎務において、主任として積極的に課題を解決しようとしている。                  ③校務や舎務についての責任を自覚し、寄宿舎経営や分掌する校務・舎務に主任として主体的に積極的に取り組んでいる。                  ④学級担任や他の教職員、保護者や地域の関係者等と連携・協力をはかりながら、主任として寄宿舎運営上の取り組みに主体的に関わろうとしている。                  ⑤寄宿舎経営や分掌する校務・舎務について、研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】 計画の実施、校務・舎務の処理、教職員や関係者等との連携、他の教職員に対する支援・配慮</b></p> <p>①寄宿舎目標や指導計画に沿って中心となって取り組みを進めている。                  ②計画的に効率よく校務や舎務を処理している。                  ③学級担任や他の教職員、保護者や地域の関係者等と連携・協力をはかりながら、主任として寄宿舎運営上の取り組みに積極的に関わっている。                  ④他の教職員の課題を共有し、経験に基づき適切な支援や配慮を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】 指導目標の達成、寄宿舎運営の改善、保護者・地域の協力</b></p> <p>①学校教育目標・寄宿舎目標を、分掌した校務や舎務の取組の中で具現化し実現できた。また、舎生会活動や寄宿舎行事等を通じて、指導目標の達成が認められた。                  ②学校教育目標等に沿い、学級担任や他の教職員との連携のもと、分掌した校務や舎務、寄宿舎運営上の課題についての改善策を示す等、中心となって寄宿舎運営の改善を進めた。                  ③分掌した校務や舎務の取り組みに当たって、保護者や地域、関係機関の理解や協力を得ることができた。</p>			
※独自の内容					

評価項目	着眼点	自己評価 A B	第一次 評価者 A B	第二次 評価者 A B
自己管理	①教育公務員としての職責や義務（法令遵守や秘密の保持等）を自覚し、職務に取り組んでいる。 ②自己を客観的に捉えるとともに、他者の助言を受け止め、改善に努めている。 ③児童生徒に対して効果的な教育活動を行うために、心身の健康を保ち、仕事と生活の充実を図ることで、人間性を高めるよう心がけている。			
<b>項目別評価の基準</b> （各評価項目の観点ごとの評価で、職務の遂行状況を評価するもの） <b>【S+】</b> すべての着眼点において、周囲からの助言・指導が必要ないレベルで、常に求められる水準以上の取組であった。 <b>【S】</b> すべての着眼点において、周囲からの助言・指導がほとんど必要ないレベルで、常に求められる水準の取組であった。 <b>【A】</b> ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・指導を有効に生かし、求められる水準の取組であった。 <b>【B】</b> 本人の努力は認めるが、ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・支援がなければ職務を遂行しにくい状況が多く、求められる水準の取組が見られないことが多かった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。 <b>【C】</b> すべての着眼点において、求められる水準の取組がほとんど見られず、周囲からの助言・支援がなければ職務遂行できないことが頻繁であった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。				
評価者	所見及び今後の育成方針			
評価者	総合評価 S+ S A B C	総合評価をS以上又はB以下とする場合は、評価基準にしたがって具体的な理由（影響・効果等）を記載すること。		
<b>総合評価の基準</b> （すべての項目評価を通した上で、学校の活性化及び地域の教育の充実に対する貢献を評価するもの） <b>ア</b> S以上とする場合は、次の①又は②の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてS以上があり、B以下がないこと。独自の内容及び自己管理についてはB以下がないこと。 <b>イ</b> B以下とする場合は、次の④又は⑤の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてB以下があり、S以上がないこと。 <b>①【S+】</b> すべての評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者（教職員、児童生徒、保護者等。以下「関係者」という。）はもとより県全域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。 <b>②【S】</b> 多くの評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者はもとより地域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。 <b>③【A】</b> 求められる成果や取組があり、チームの一員としての役割を果たしていた。（他のいずれの区分にも当てはまらない場合） <b>④【B】</b> 求められる成果や取組が見られないことがあり、校内及び地域の関係者に支障を及ぼすことが頻繁にあった。 <b>⑤【C】</b> 求められる成果や取組が見られないことが多く、校内及び地域の関係者に著しい支障を頻繁に及ぼした。				

※ 特色ある学校づくりの視点や学校教育目標との関係等から、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合は、事前に教職員に示し、自己目標を設定するよう指示するとともに、評価基準及び着眼点を作成し、速やかに教職員に示すことが必要。なお、着眼点及び着眼点の例は、勤務評価において活用するだけでなく、自己評価の設定において自己の振り返りに活用するため、当初に示す必要がある。

様式2-11【寄宿舎指導員】

評価・育成シート

第二次評価者

所属			職名			ふりがな氏名		
通し番号		担当学年(担当科目)		校務分掌				

第一次評価者

評価期間 年 月 日～ 年 月 日

評価項目	評価の観点	着眼点及び取組の例	自己評価 S+ S A B C	第一次評価者 S+ S A B C	第二次評価者 S+ S A B C
寄宿舎生の指導	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】 公平な姿勢・態度、寄宿舎生理解、創意・工夫、健康・安全等への配慮、教職員や関係者等との連携、研修意欲</b></p> <p>①寄宿舎生に対し、公平に接している。                  ②積極的に寄宿舎生とコミュニケーションをはかり、寄宿舎生の理解や関係作りに努めている。                  ③寄宿舎生の基本的生活習慣の確立や、自主性の育成のため、指導方法の創意・工夫に努めている。                  ④寄宿舎生一人一人の障がいの状態を把握し、健康や安全に配慮し、適切な指導や支援を行っている。                  ⑤学級担任や他の教職員、保護者や地域の関係者等と連携し、協力を得ながら寄宿舎生の指導に当たっている。                  ⑥寄宿舎生の障がいの理解等について研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】 寄宿舎生理解、寄宿舎行事等の計画・実施、障がい等の把握・適切な支援、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①寄宿舎生の発達段階や障がいの状況、生活の状況等を的確に捉えている。                  ②寄宿舎生の実態や発達段階に即し、舎生会活動や寄宿舎行事等を計画・実施している。                  ③寄宿舎生の健康や障がいの状態、興味・関心等を把握し、必要な支援を適切に行っている。                  ④他の教職員の課題を共有し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】 寄宿舎目標等の達成、寄宿舎生の日常生活の世話及び指導、望ましい人間関係の醸成、寄宿舎生の障がい等への対応</b></p> <p>①学校教育目標に即して、寄宿舎目標を達成できた。                  ②寄宿舎生の障がいの状態等を的確に把握し、日常生活の世話及び生活指導を適切に行うことができた。                  ③寄宿舎生とのコミュニケーションをはかり、良好な関係を築くことができた。                  ④寄宿舎生の障がいの状態を的確に把握し、指導や対応を適切に行った。</p>			
学校運営	意欲姿勢	<p><b>【着眼点】 経営参加、課題解決、校務・舎務に対する責任感、教職員や関係者等との連携、研修意欲</b></p> <p>①寄宿舎経営上の課題に対し、建設的な提案をする等、寄宿舎経営に積極的に参加している。                  ②寄宿舎経営や分掌する校務・舎務において、積極的に課題を解決しようとしている。                  ③校務や舎務についての責任を自覚し、寄宿舎経営や分掌する校務・舎務に積極的に取り組んでいる。                  ④学級担任や他の教職員、保護者や地域の関係者等と連携・協力をはかりながら、寄宿舎運営上の取り組みに積極的に関わろうとしている。                  ⑤寄宿舎経営や分掌する校務・舎務について、研修に努め、実践に生かそうとしている。</p>			
	能力	<p><b>【着眼点】 計画の実施、校務・舎務の処理、教職員や関係者等との連携、他の教職員に対する支援</b></p> <p>①寄宿舎目標や指導計画に沿って取り組みを進めている。                  ②計画的に効率よく校務や舎務を処理している。                  ③学級担任や他の教職員、保護者や地域の関係者等と連携・協力をはかりながら、寄宿舎運営上の取り組みに積極的に関わっている。                  ④他の教職員の課題を共有し、適切な支援を行っている。</p>			
	実績	<p><b>【着眼点】 指導目標の達成、寄宿舎運営の改善、保護者・地域の協力</b></p> <p>①学校教育目標・寄宿舎目標を、分掌した校務や舎務の取り組みの中で具現化し実現できた。また、舎生会活動や寄宿舎行事等を通じて、指導目標の達成が認められた。                  ②学校教育目標等に沿い、学級担任や他の教職員との連携のもと、分掌した校務や舎務、寄宿舎運営上の課題についての改善策を示す等、寄宿舎運営の改善を進めた。                  ③分掌した校務や舎務の取り組みに当たって、保護者や地域の関係者等の理解や協力を得ることができた。</p>			
※独自の内容					

評価項目	着眼点	自己評価 A B	第一次 評価者 A B	第二次 評価者 A B
自己管理	①教育公務員としての職責や義務（法令遵守や秘密の保持等）を自覚し、職務に取り組んでいる。 ②自己を客観的に捉えるとともに、他者の助言を受け止め、改善に努めている。 ③児童生徒に対して効果的な教育活動を行うために、心身の健康を保ち、仕事と生活の充実を図ることで、人間性を高めるよう心がけている。			
<b>項目別評価の基準</b> （各評価項目の観点ごとの評価で、職務の遂行状況を評価するもの） <b>【S+】</b> すべての着眼点において、周囲からの助言・指導が必要ないレベルで、常に求められる水準以上の取組であった。 <b>【S】</b> すべての着眼点において、周囲からの助言・指導がほとんど必要ないレベルで、常に求められる水準の取組であった。 <b>【A】</b> ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・指導を有効に生かし、求められる水準の取組であった。 <b>【B】</b> 本人の努力は認めるが、ほとんどの着眼点において、周囲からの助言・支援がなければ職務を遂行しにくい状況が多く、求められる水準の取組が見られないことが多かった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。 <b>【C】</b> すべての着眼点において、求められる水準の取組がほとんど見られず、周囲からの助言・支援がなければ職務遂行できないことが頻繁であった。助言・指導の受け入れと、より一層の努力と改善が必要である。				
評価者	所見及び今後の育成方針			
評価者	総合評価 S+ S A B C	総合評価をS以上又はB以下とする場合は、評価基準にしたがって具体的な理由（影響・効果等）を記載すること。		
<b>総合評価の基準</b> （すべての項目評価を通した上で、学校の活性化及び地域の教育の充実に対する貢献を評価するもの） <b>ア</b> S以上とする場合は、次の①又は②の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてS以上があり、B以下がないこと。独自の内容及び自己管理についてはB以下がないこと。 <b>イ</b> B以下とする場合は、次の④又は⑤の基準にあてはまり、かつ、すべての評価項目において、少なくとも1つの観点においてB以下があり、S以上がないこと。 <b>①【S+】</b> すべての評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者（教職員、児童生徒、保護者等。以下「関係者」という。）はもとより県全域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。 <b>②【S】</b> 多くの評価項目において特筆すべき成果や取組があり、校内の関係者はもとより地域の多くの関係者に非常に優れた具体的な影響・効果があった。 <b>③【A】</b> 求められる成果や取組があり、チームの一員としての役割を果たしていた。（他のいずれの区分にも当てはまらない場合） <b>④【B】</b> 求められる成果や取組が見られないことがあり、校内及び地域の関係者に支障を及ぼすことが頻繁にあった。 <b>⑤【C】</b> 求められる成果や取組が見られないことが多く、校内及び地域の関係者に著しい支障を頻繁に及ぼした。				

※ 特色ある学校づくりの視点や学校教育目標との関係等から、所属長の責任の下に独自の評価項目を設定した場合は、事前に教職員に示し、自己目標を設定するよう指示するとともに、評価基準及び着眼点を作成し、速やかに教職員に示すことが必要。なお、着眼点及び着眼点の例は、勤務評価において活用するだけでなく、自己評価の設定において自己の振り返りに活用するため、当初に示す必要がある。

1. 次の表の(5)ア～サについて報告する

評価システムの対象者から除外する職員（実施要領2）		評価システム		
		自己目標評価	勤務評価	
(1) 臨時的任用の職員 (2) 育児休業代替教育職員		校長又は共同調理場の長の判断	対象外	
(3) 教育委員会事務局等勤務者		対象外		
(4) 4月1日以降に採用又は異動を命ぜられた職員のうち、定期評価の対象期間が4月に満たない職員		対象外		
(5) 次に掲げる事由により実際に職務に従事した期間が4月に満たない職員		対象外		
		職員の有無	有りの場合の人数	
		ア 休職	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
		イ 公務傷病等による休暇	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
		ウ 私傷病による休暇	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
		エ 産前産後の休暇	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
		オ 介護休暇等	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
		カ 育児休業	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
		キ 配偶者同行休業	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
		ク 停職	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
		ケ 長期研修	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
コ 長期派遣	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
サ 大学院修学休業	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			

2. 1の表(5)ア～サに該当する職員の氏名を報告する

		(職名) 氏名
ア	休職	
イ	公務傷病等による休暇	
ウ	私傷病による休暇	
エ	産前産後の休暇	
オ	介護休暇等	
カ	育児休業	
キ	配偶者同行休業	
ク	停職	
ケ	長期研修	
コ	長期派遣	
サ	大学院修学休業	

3. 勤務評価を実施した職員の人数を報告する（2に該当する職員を除く）

人

- ※1 本校、分校、全日制、定時制及び通信制ごとに第二次評価者が作成すること。
- ※2 ア～サ以外の理由で評価を実施しなかった職員がいる場合は、2の表の空欄を利用して、理由を簡潔に記載し、(職名)氏名を記載すること。



**(3) 栄養教諭**

通し 番号	氏 名	食に関する指導			学校給食の管理			学 校 運 営			独 自 の 内 容	自 己 管 理
		意 欲 姿 勢	能 力	実 績	意 欲 姿 勢	能 力	実 績	意 欲 姿 勢	能 力	実 績		
1												
2												

**(4) 実習主任・実習助手**

通し 番号	氏 名	授業・事務			学 校 運 営			独 自 の 内 容	自 己 管 理
		意 欲 姿 勢	能 力	実 績	意 欲 姿 勢	能 力	実 績		
1									
2									
3									
4									
5									

**(5) 主任寄宿舎指導員・寄宿舎指導員**

通し 番号	氏 名	寄宿舎生の指導			学 校 運 営			独 自 の 内 容	自 己 管 理
		意 欲 姿 勢	能 力	実 績	意 欲 姿 勢	能 力	実 績		
1									
2									
3									
4									
5									

## 記載方法

- 1 学校ごとに第二次評価者が、評価・育成シートの第二次評価者の評価に基づいて作成すること。
- 2 職の区分ごとに、年齢の高い者から順に記載すること。

様式 5

文書記号及び文書番号  
令和 年 月 日

島根県教育委員会教育長 様

所属名

所属長氏名

定期評価の再評価について

標記の件について、下記の理由により、定期評価の再評価を提出します。

第二次評価者	職名		氏名	
第一次評価者	職名		氏名	
再評価を行う対象者	職名		氏名	
再評価の内容				
再評価の理由				

記載方法

- 1 再評価の内容については、いずれの評価者の評価をどのように変更するのか具体的に記載します。
- 2 再評価の理由は具体的に記載します。